

証券コード:5401



**新日鐵住金**

**NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL**

# 2018年度 1Q決算説明会

**2018年8月2日**

特に断りのない限り、本資料中の財務数値は連結数値

© 2018 NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL CORPORATION All Rights Reserved.



**新日鐵住金**

2019年4月 日本製鉄へ

1. 2018年度1Q決算・上期見通し

2. 2018年度見通し

3. 中期経営計画の進捗状況

4. 参考資料

# 1. 2018年度1Q決算・上期見通し



# 2018年度1Q決算・上期見通しの概況

## 事業環境

- **国内鉄鋼需要**：自動車向け・産業機械向けを中心に堅調な伸び
- **海外鉄鋼需要**：堅調な世界経済（米：大型減税効果もあり良好、中：安定的、欧・新興国：緩やかに回復）を背景に、引き続き増加

## トピックス

- **生産量（単独粗鋼）** 1Q：1,029万 t - 6月名古屋溶鋼漏れ等の設備トラブル、一貫定修の集中等  
2Q以降：1,100万 t/Q程度を見込む - 設備と人の強化への取り組みを継続
- **7月豪雨影響**：和歌山・八幡・呉（日新）等で一時生産影響あり。日新は自家発電設備復旧等で100億円を超える損失が発生する見込み（当社連結損益見通しに反映）。
- **特殊鋼事業強化**：6/1 OVAKO社 完全子会社化完了（取得価額517億円）  
8/2 山陽特殊製鋼の子会社化、OVAKO株式の山陽特殊製鋼への譲渡 契約締結
- **日新完子化、ステンレス事業再編**：5/16公表 日新製鋼完全子会社化(19.1月)、ステンレス鋼板事業統合(19.4月)  
8/2公表 溶接ステンレス鋼管事業統合・再編(19.4月)
- **Iツール買収**：入札資格に関する裁判所審査手続き中

## 決算概況

(億円)	1Q	上期見通し		下期見通し	年度見通し
	[日本基準]	[日本基準]	[IFRS]	[IFRS]	[IFRS]
<b>経常/事業利益*</b>	877	1,500	1,600	1,900	3,500
<b>当期利益**</b>	963	1,300	1,100	1,300	2,400
<b>ROS</b>	6.1%	5.0%	5.3%	5.8%	5.6%

## 第2四半期末配当予定：

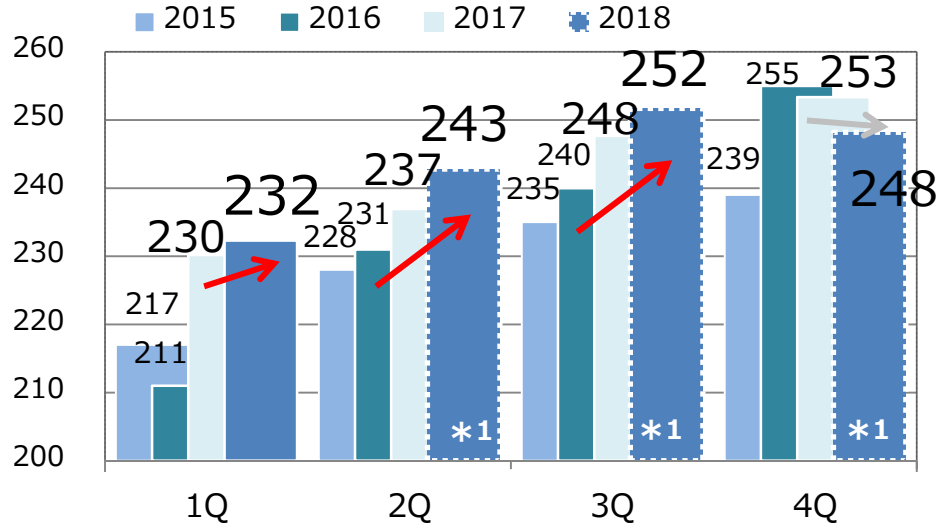
40円/株  
連結配当性向  
[IFRS] 32% ,  
[日本基準] 27%

\* 事業利益 = 税金等調整前当期純利益から負担金利と個別開示項目を除いたもの  
(個別開示項目 = 当社グループの営業活動と関連が低く金額的影響が大きい非定期的項目)

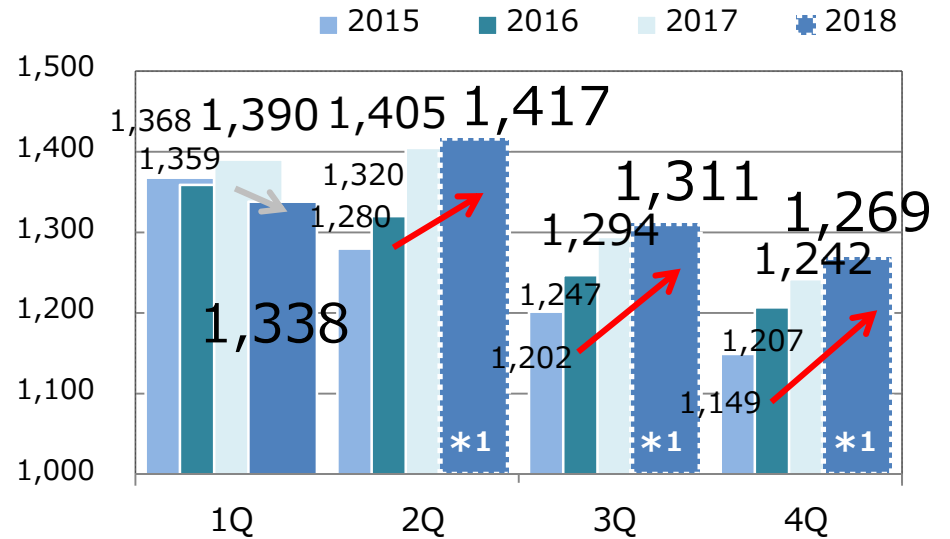
\*\* 親会社株主に帰属する当期純利益

# 国内主要分野活動水準

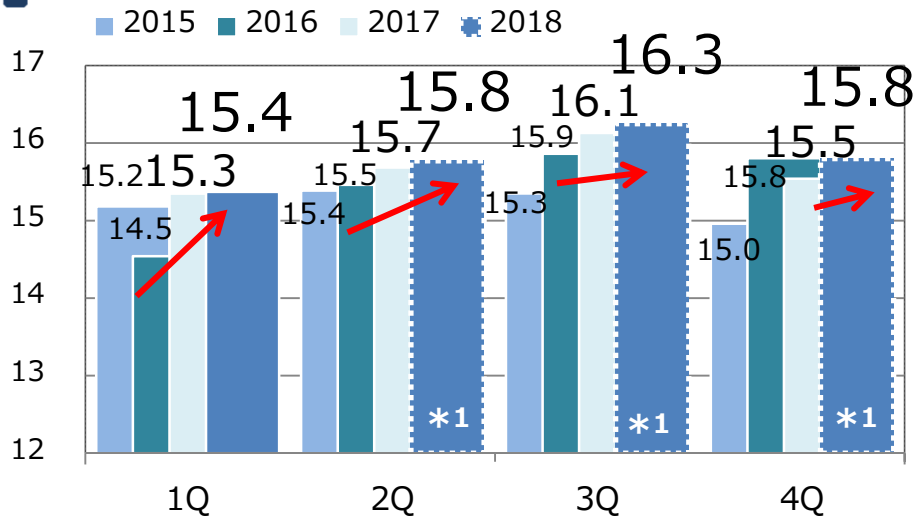
## 国内完成車生産台数 (万台)



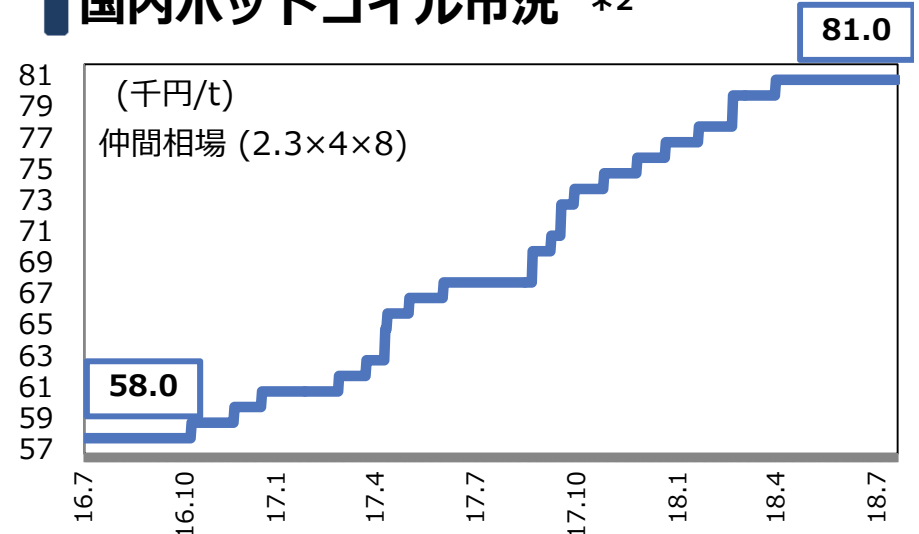
## 非住宅着工床面積 (万㎡)



## 国内鋼材消費 (百万 t)



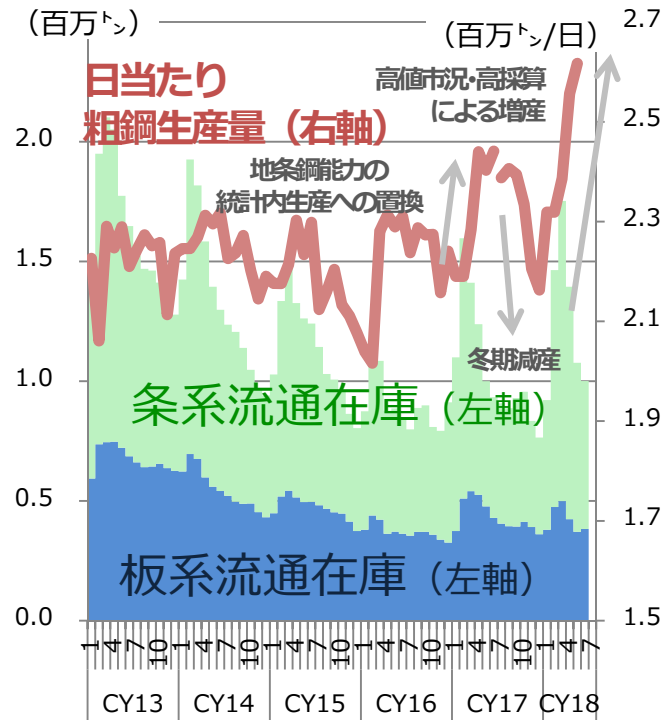
## 国内ホットコイル市況 \*2



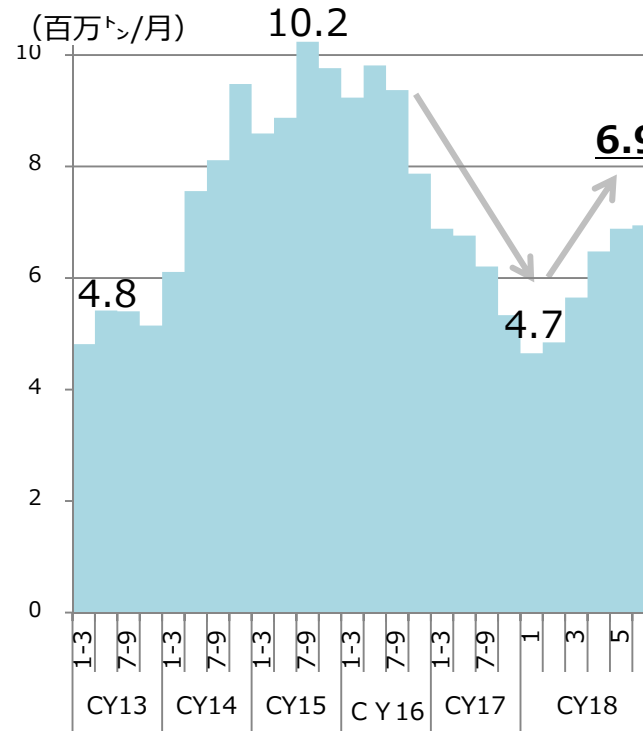
\*1 7月上旬見込み値 \*2 出典：鉄鋼新聞

# 中国鋼材需給・市況

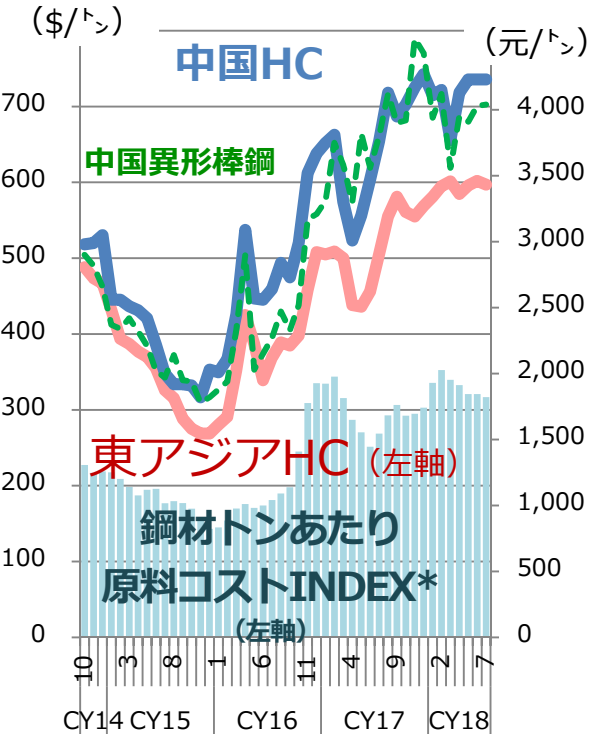
## 中国粗鋼生産と鋼材流通在庫



## 中国鋼材輸出



## 鋼材市況



粗鋼生産は過去最高記録を更新も、需給堅調に伴い、在庫は低位、市況高値維持。  
一方で、輸出の増加傾向は懸念材料。内需減速による輸出ドライブの高まりには注視が必要。

- 粗鋼生産量 - 5月：8,113万 t (初の8,000万 t 超え)、6月：8,020万 t と過去最高レベル
- 在庫 - 旺盛な内需により市中在庫は低位維持。
- 輸出 - 5ヶ月連続で増加。国際市況への影響を要注視。
- 市況 - 大気汚染対策「青空を守る戦い」等、環境減産による供給タイト化の思惑から市況は高値維持。夏季高温による需要端境期については市況弱含みの懸念あり。

出典:日本鉄鋼連盟、鋼之家、当社推定

\* 鉱石市況×1.7 +  
石炭市況×0.9で計算

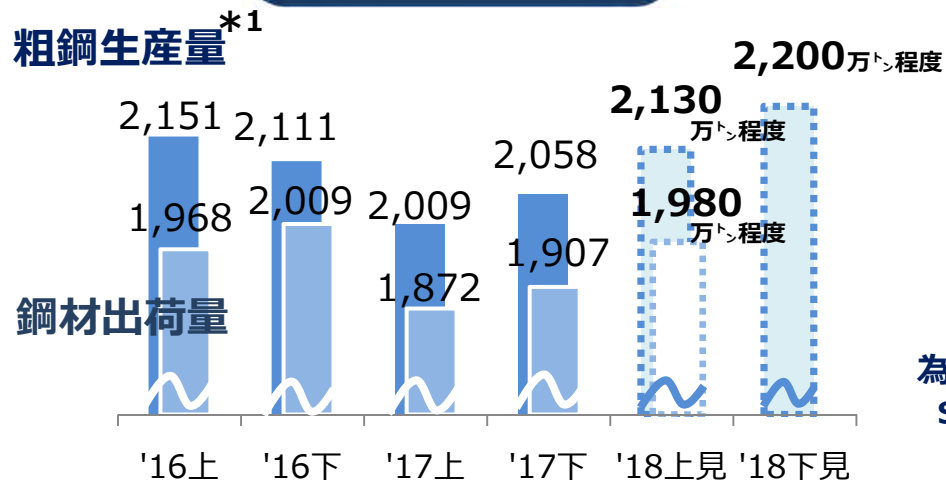


新日鐵住金

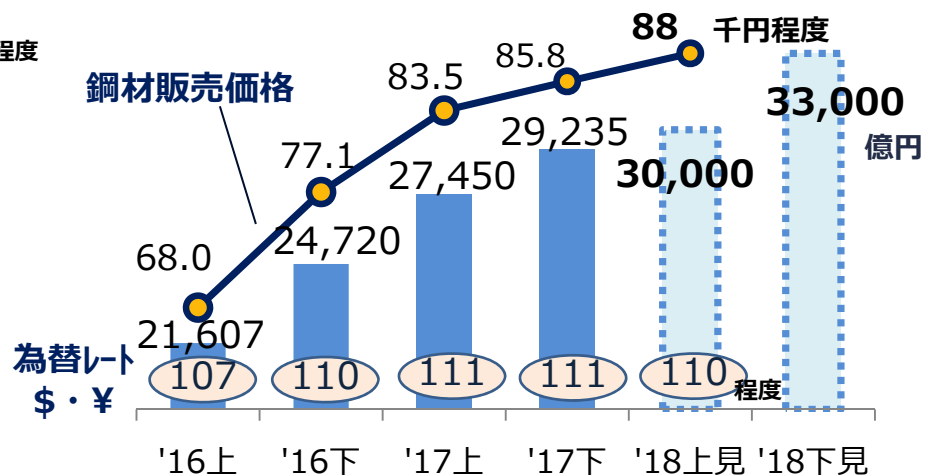
2019年4月 日本製鉄へ

# 主要指標推移

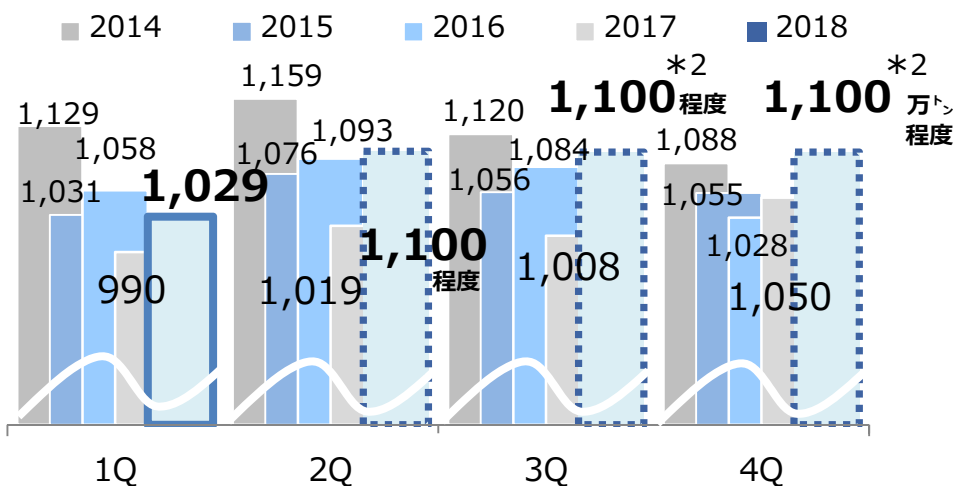
## 数量



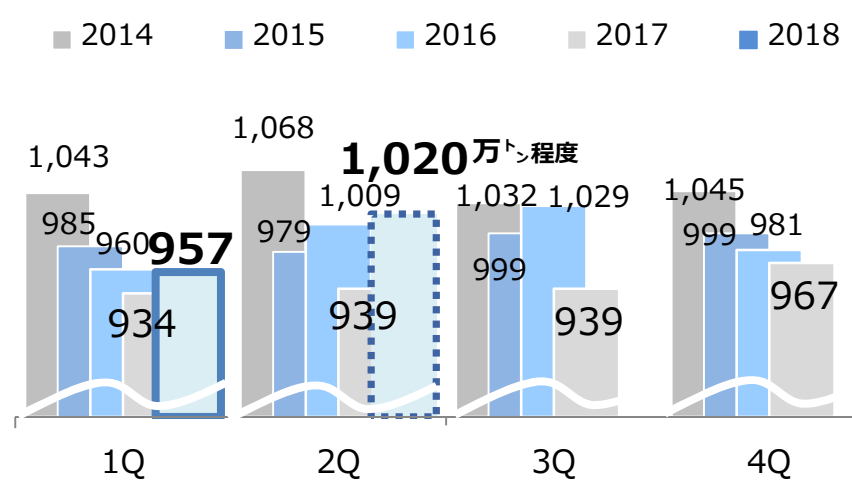
## 売上高



## 粗鋼量 (単独)



## 鋼材出荷量



\*1 ~FY2017：日鉄住金鋼鉄和歌山含む (FY2018~：合併により単独の内数化)

\*2 2018年度3Q,4Q=2018下期見通し÷2

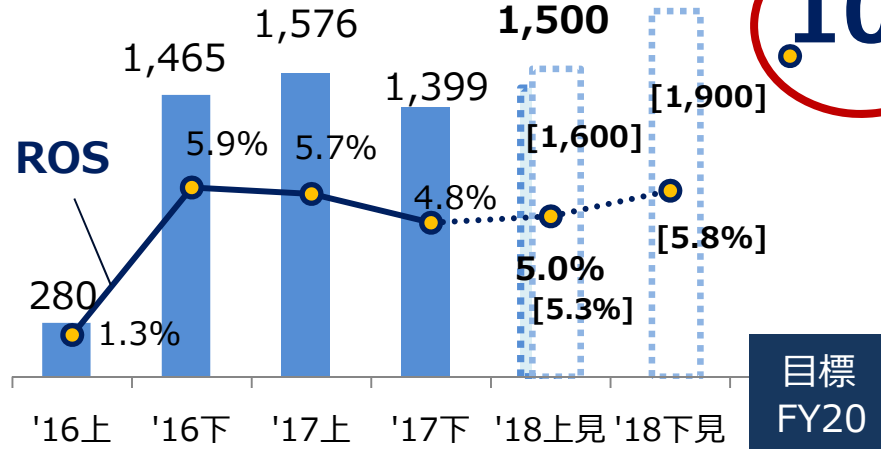
© 2018 NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL CORPORATION All Rights Reserved.



# 主要指標推移

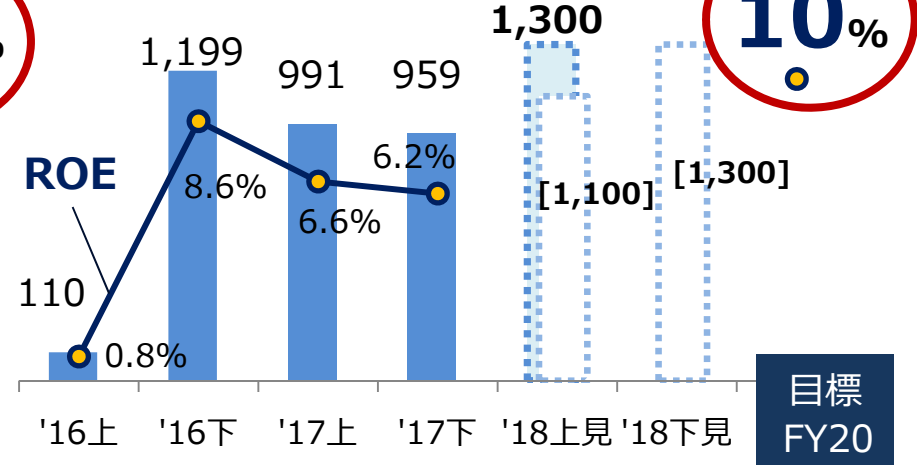
## 経常利益/事業利益(億円)

[ ]内の数値=IFRSベース



## 当期利益(億円) \*1

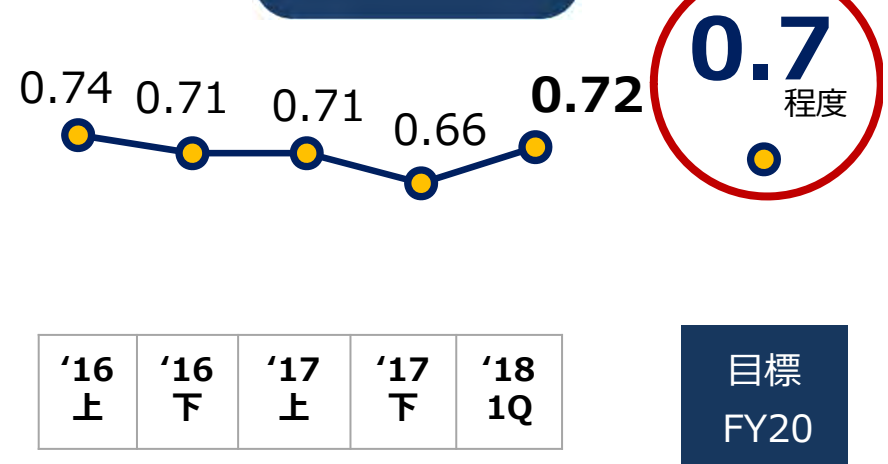
[ ]内の数値=IFRSベース



## コスト改善(億円)



## D/Eレシオ



\*1 親会社株主に帰属する当期純利益

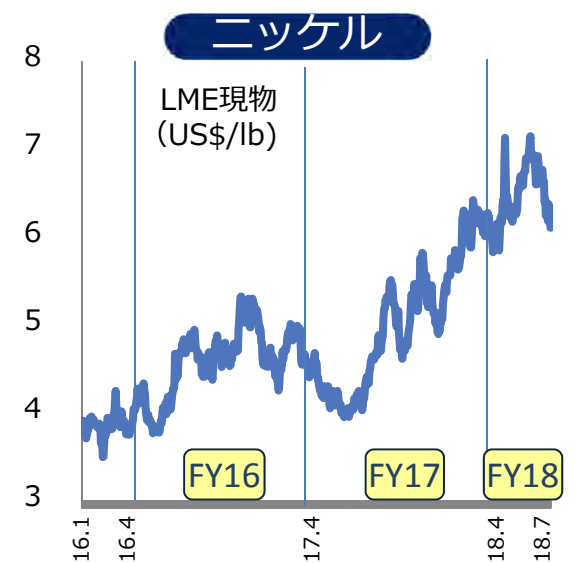
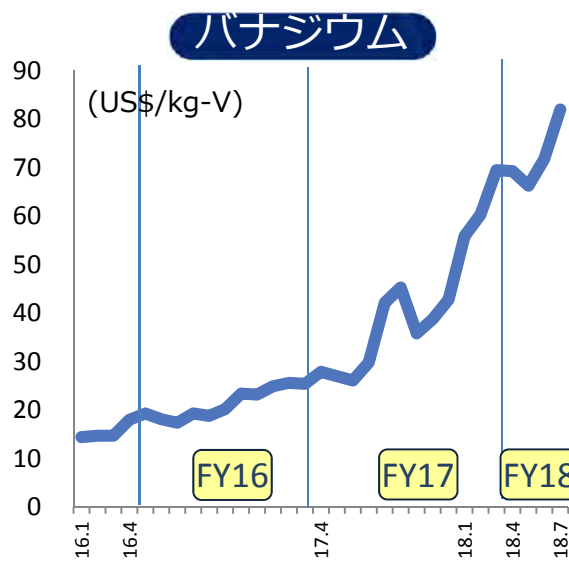
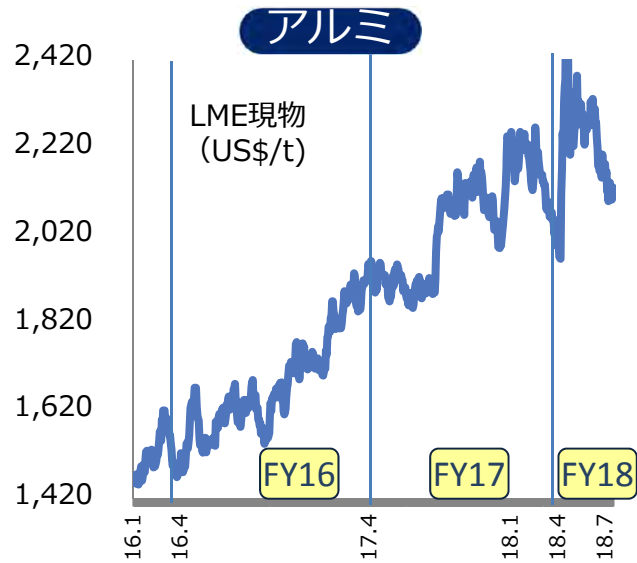
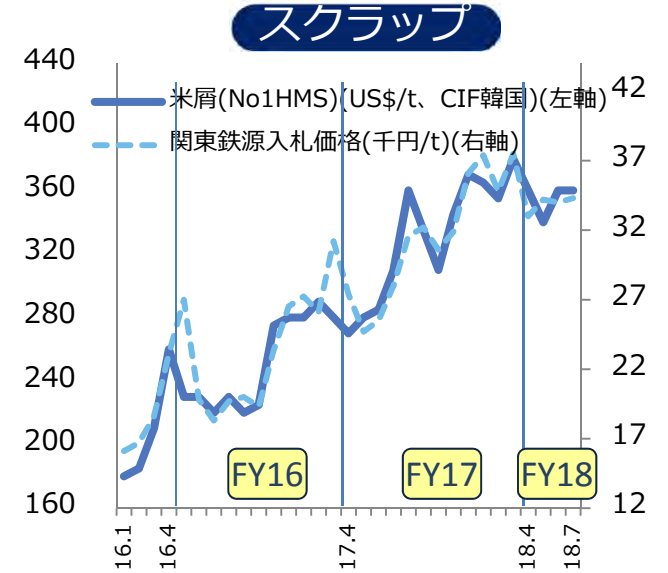
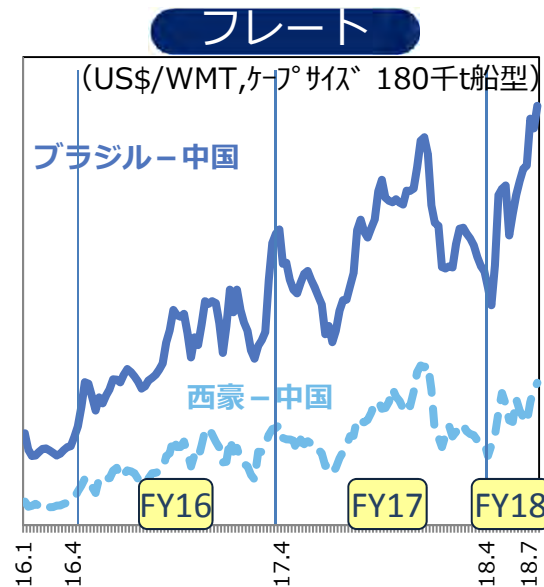
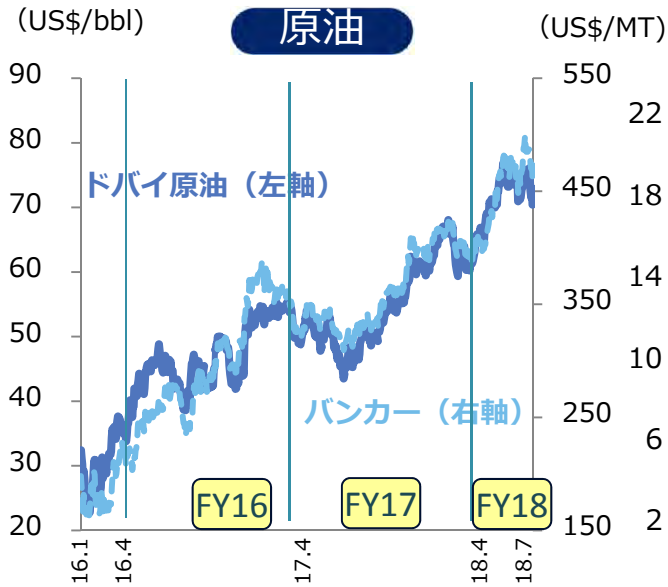


新日鐵住金

2019年4月 日本製鉄へ



# 市況品価格上昇



出典:LME, Bloomberg, 日刊鉄鋼新聞

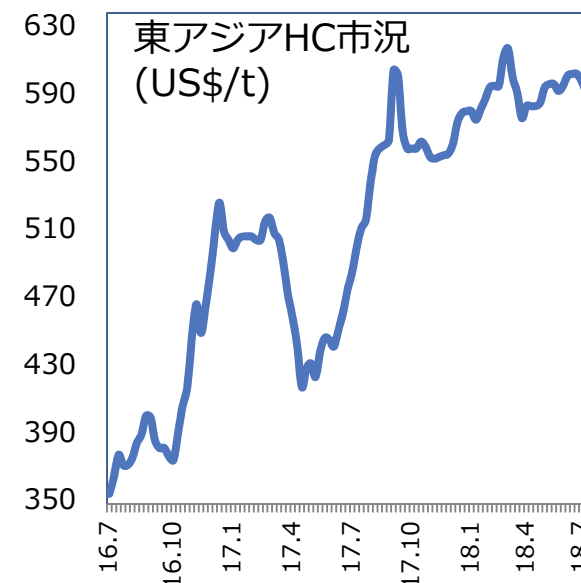
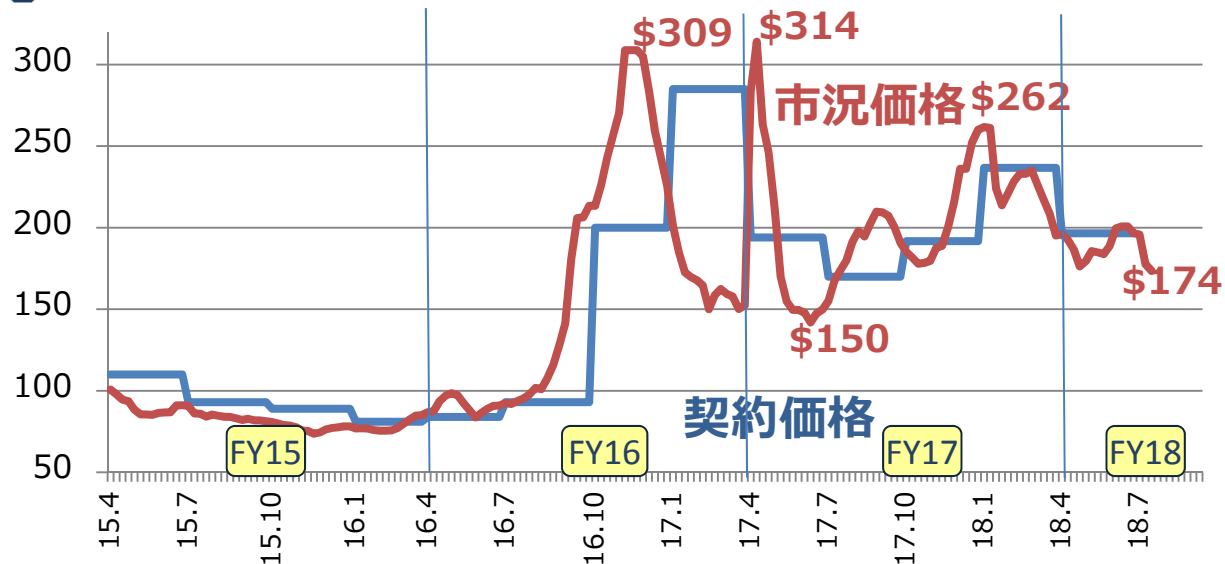


新日鐵住金

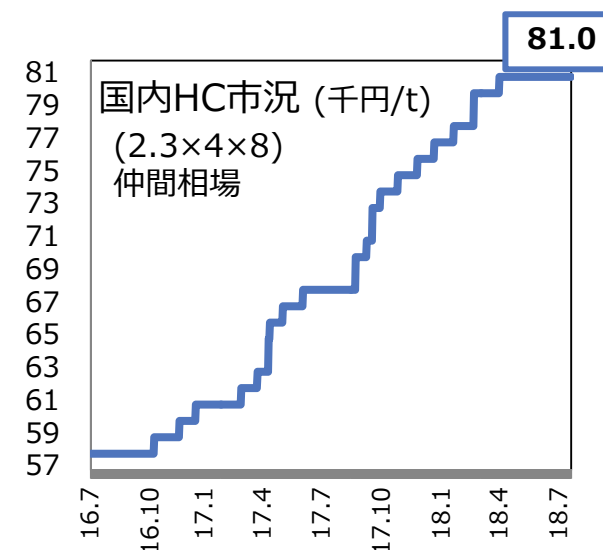
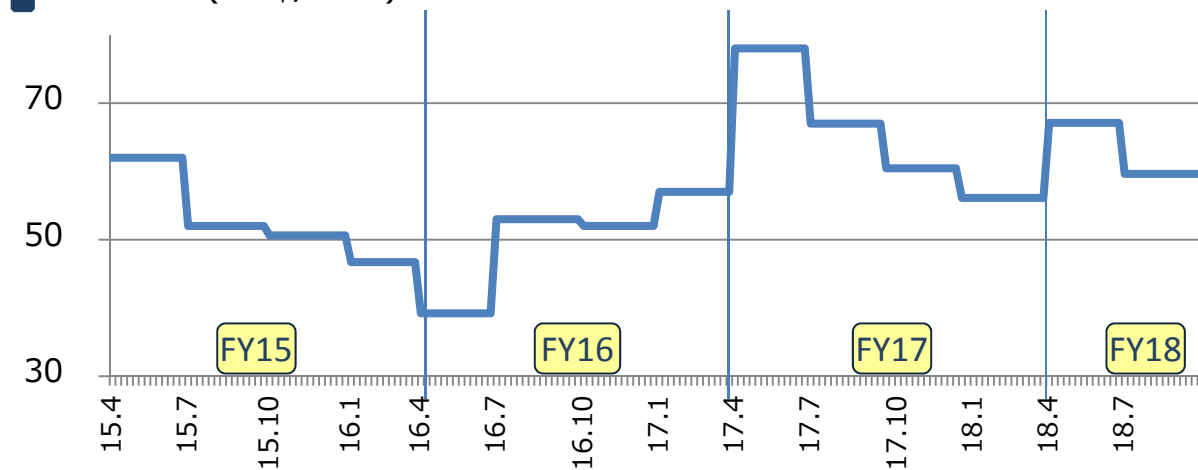
2019年4月 日本製鉄へ

# 主原料価格・ホットコイル市況価格推移

## 強粘結炭 (US\$/wmt)



## 粉鉱石 (US\$/dmt)



出典:LME, Bloomberg, 日刊鉄鋼新聞

# 当社製鉄事業 主要指標

(単位：万ト)	FY17						FY18			差異	
	1Q	2Q	上期	4Q	下期	年度	1Q	2Q 見通し	上期 見通し	17/1Q → 18/1Q	17/上 → 18/上見
出鉄量(単独)*1	992	1,013	2,005	1,049	2,057	4,061	1,025	1,100 程度	2,120 程度	+33	+115 程度
粗鋼生産量(連結)	1,144	1,169	2,312	1,202	2,370	4,682	1,184	1,250 程度	2,440 程度	+40	+128 程度
粗鋼生産量(単独)*2	990	1,019	2,009	1,050	2,058	4,067	1,029	1,100 程度	2,130 程度	+39	+121 程度
鋼材出荷量	934	939	1,872	967	1,907	3,779	957	1,020 程度	1,980 程度	+23	+108 程度
シームレス出荷量	24	23	47	25	49	96	25	27 程度	51 程度	+1	+4 程度
鋼材平均価格 (千円/ト)	84.0	83.0	83.5	85.7	85.8	84.7	87.2	88 程度	88 程度	+3.3	+4.5 程度
鋼材輸出比率(%) [金額ベース]	41.6	41.5	41.6	40.9	40.8	41.2	40.6	42 程度	41 程度	-1.0%	-0.1% 程度
為替レート(¥・\$)	111	111	111	110	111	111	108	110 程度	110 程度	3円高	1円高 程度

\*1 北海製鉄・日鉄住金鋼鉄和歌山(FY2017)含み

\*2 日鉄住金鋼鉄和歌山含み(FY2017)

© 2018 NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL CORPORATION All Rights Reserved.



新日鐵住金

2019年4月 日本製鉄へ

# 2018年度1Q決算・上期見通し【日本基準】

12

(単位：億円)	FY17						FY18			差異	
	1Q	2Q	上期	4Q	下期	年度	1Q	2Q 見通し	上期 見通し	17/1Q → 18/1Q	17/上 → 18/上見
売上高	13,554	13,896	27,450	15,041	29,235	56,686	14,408	15,592	30,000	+854	+2,550
営業損益	665	334	999	443	823	1,823	481			-184	
経常損益	1,079	496	1,576	720	1,399	2,975	877	623	1,500	-202	-76
特別損益	-	-29	-29	-200	-47	-76	102			+102	
当期損益 <sup>*1</sup>	713	278	991	390	959	1,950	963	337	1,300	+250	+309
[ 1株当たり 当期損益 ]	[80.8]	[31.5]	[112.3]	[44.2]	[108.7]	[221.0]	[109.2]	[37.8]	[147.0]	[+28.3]	[+34.7]
EBITDA <sup>*2</sup>	1,497	1,185	2,682	1,339	2,596	5,278	1,407			-90	
EBITDA/Sales	11.0%	8.5%	9.8%	8.9%	8.9%	9.3%	9.8%			-1.3%	
ROS	8.0%	3.6%	5.7%	4.8%	4.8%	5.2%	6.1%	4.0%	5.0%	-1.9%	-0.7%
ROE	9.6%	3.7%	6.6%	4.9%	6.2%	6.4%	12.2%			+2.6%	

\*1 親会社株主に帰属する当期純利益

\*2 営業利益+償却費



# 特別損益 【日本基準】

	FY17						FY18
	1Q	2Q	上期	4Q	下期	年度	1Q
<b>特別損益</b> (単位：億円)	—	-29	-29	-200	-47	-76	102
投資有価証券売却益	—	—	—	11	256	256	102
減損損失	—	—	—	-156	-156	-156	
設備休止関連損失	—	-29	-29	-57	-87	-116	
事業再編損	—	—	—	1	-61	-61	

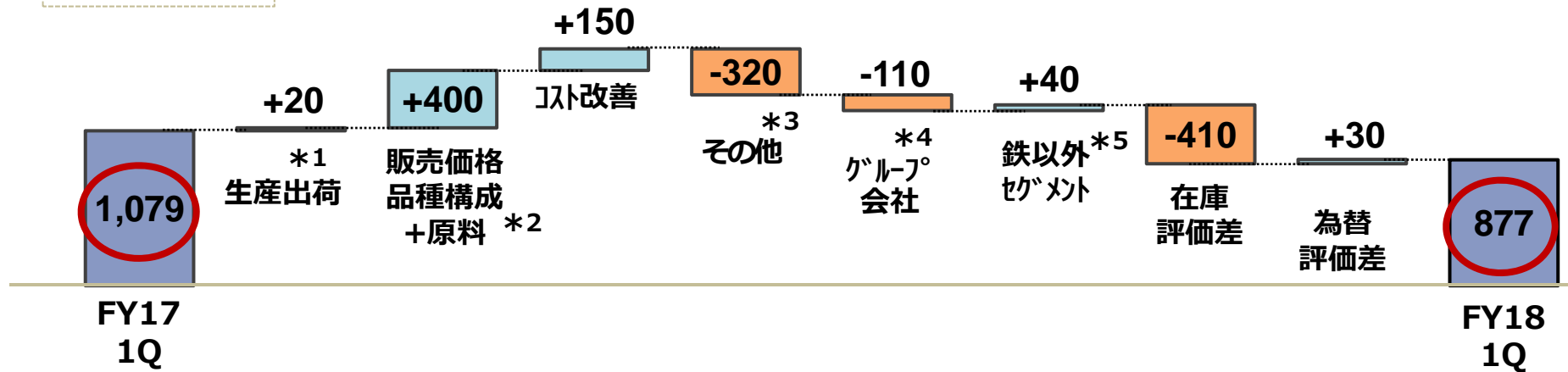
# 経常損益分析 (FY17/1Q→FY18/1Q) 【日本基準】

(単位:億円)	FY17/1Q [A]	FY18/1Q [B]	増減 [A→B]
<b>経常利益</b>	<b>1,079</b>	<b>877</b>	<b>-202</b>
製鉄	987	816	-171
鉄以外セグメント	74	114	+40
調整額	18	-53	-71

\*下記、17/1Qの生産出荷量は大分厚板火災影響含み。但し、影響額は一過性に切り出し。

- \*1 粗鋼+39万ト (990→1,029)  
出荷+23万ト (934→957)
- \*2 キャリオーバー影響 ~ (60→60)
- \*3 為替円- ~、18上期上工程工事集中影響、  
長期貯蔵品\*固定資産化等  
\*圧延ロール、連続鑄造機セグメント等
- \*4 海外事業会社、日新製鋼等
- \*5 エンジニアリング+4、化学+32、  
新素材+3、NSSOL+2

■ 増益要因  
■ 減益要因

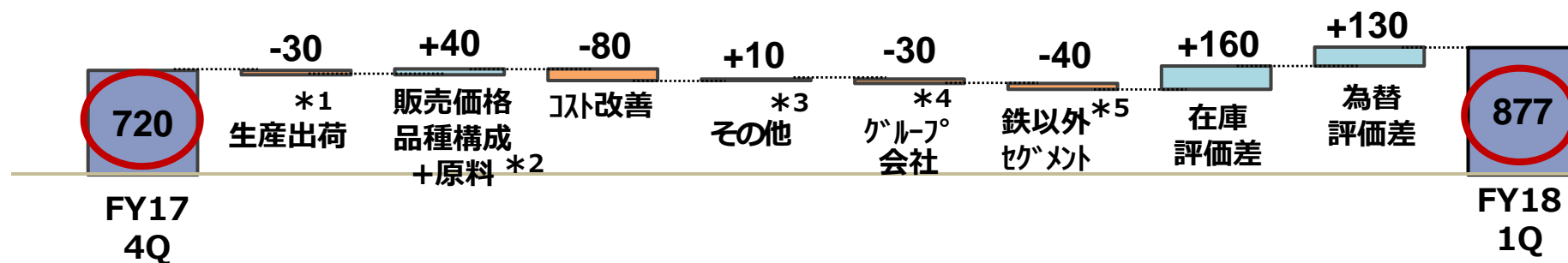


# 経常損益分析 (FY17/4Q→FY18/1Q) 【日本基準】

(単位:億円)	FY17/4Q [A]	FY18/1Q [B]	増減 [A→B]
<b>経常利益</b>	<b>720</b>	<b>877</b>	<b>+157</b>
製鉄	559	816	+257
鉄以外セグメント	155	114	-41
調整額	4	-53	-57

- \*1 粗鋼▼21万ト (1,050→1,029)  
出荷▼10万ト (967→957)
- \*2 キャリオーバー影響 -30 (90→60)
- \*3 為替加- +10、長期貯蔵品固定資産化 等
- \*4 海外事業会社、日新製鋼等
- \*5 エンジニアリング-44、化学+32、  
新素材+4、NSSOL-32

増益要因  
 減益要因



# 経常損益分析 (FY17/上期→FY18/上期見通し) 【日本基準】 16

(単位:億円)	FY17/上期 [A]	FY18/上期 見通し [B]	増減 [A→B]
<b>経常利益</b>	<b>1,576</b>	<b>1,500</b>	<b>-76</b>
製鉄	1,287	1,300	+13
鉄以外セグメント	232	235	+3
調整額	56	-35	-91

\*1 粗鋼+121万ト程度(2,009→2,130程度)  
出荷+108万ト程度(1,872→1,980程度)

\*上記、17上期の生産出荷量は大分厚板火災影響含み。  
但し、影響額は一過性に切り出し。

\*2 キャリオーバー影響 +150含む (-130→20)

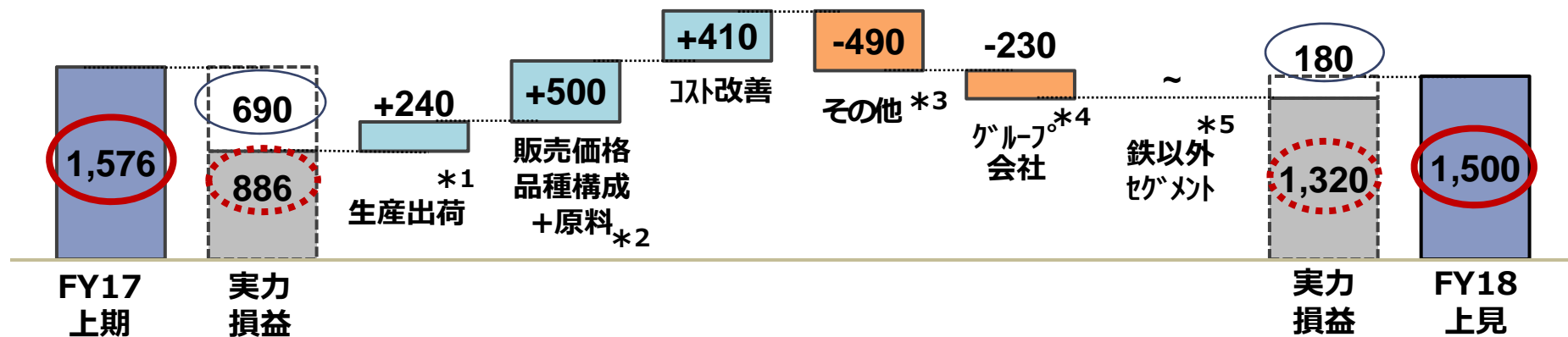
\*3 為替加-、償却費増、長期貯蔵品固定資産化  
7月豪雨影響、18上期上工程工事集中影響 等

\*4 日新製鋼、海外事業会社等

\*5 インジコリング+6、化学-3、新素材-1、NSSOL+3

■	増益要因
■	減益要因

<一過性>	17上	18上見	増減
在庫評価差	+600	+60	▲540
為替差損益	▲10	+50	+60
Gr会社一過性	+200	+70	▲130
大分火災影響	▲100	~	+100
<b>合計</b>	<b>+690</b>	<b>+180</b>	<b>▲510</b>





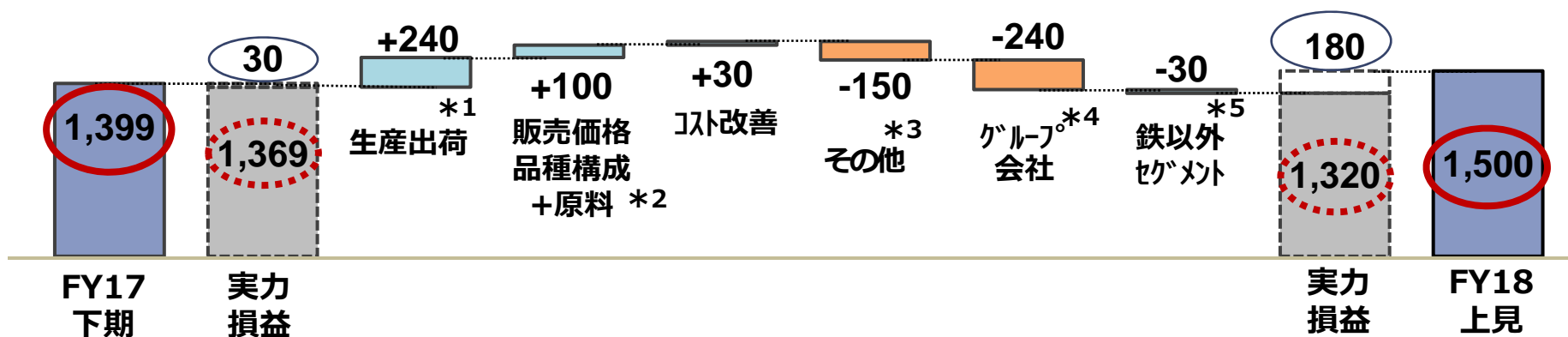
# 経常損益分析 (FY17/下期→FY18/上期見通し)【日本基準】

(単位:億円)	FY17/下期 [A]	FY18/上期 見通し [B]	増減 [A→B]
<b>経常利益</b>	<b>1,399</b>	<b>1,500</b>	<b>+101</b>
製鉄	1,169	1,300	+131
鉄以外セグメント	265	235	-30
調整額	-36	-35	+1

- \*1 粗鋼+72万ト程度 (2,058→2,130程度)  
出荷+73万ト程度(1,907→1,980程度)
- \*2 キャリオーバー影響 -60 含む(80→20)
- \*3 為替+10、長期貯蔵品固定資産化、  
7月豪雨影響、18上期上工程工事集中影響 等
- \*4 海外事業会社、原料権益、日新製鋼等
- \*5 インジコリンク-46、化学+29、  
新素材+3、NSSOL-15

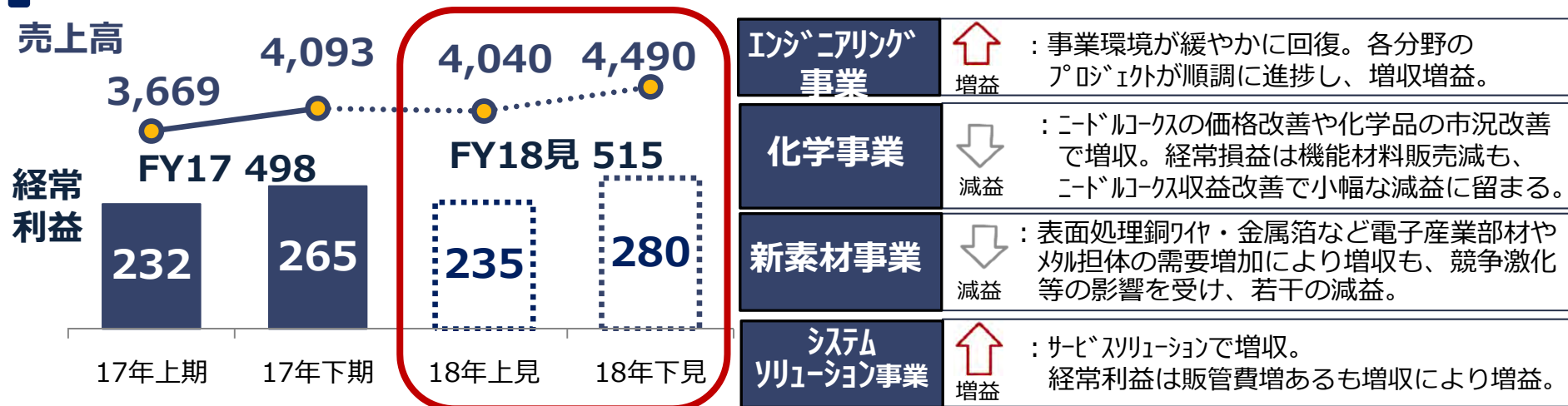
■ 増益要因  
■ 減益要因

<一過性>	17下	18上見	増減
在庫評価差	+30	+60	+30
為替差損益	▲60	+50	+110
Gr会社一過性	+60	+70	+10
<b>合計</b>	<b>+30</b>	<b>+180</b>	<b>+150</b>



# 製鉄以外セグメント概況

## 売上高・経常利益推移（4セグメント合計） 2018年度上期見通し 経常損益動向（前年同期対比）



(単位：億円)

セグメント	2017			2018		
	1Q	上期	年度	1Q	上見	年見*
エンジニアリング	608	1,341	2,942	702	1,600	3,500
売上高	-6	19	91	-2	25	85*
経常利益	465	983	2,007	492	1,050	2,150
売上高	25	93	154	57	90	170*
経常利益	90	179	370	107	210	410
売上高	4	11	19	7	10	20*
経常利益	581	1,165	2,442	584	1,180	2,470
売上高	50	107	232	52	110	240*
経常利益						

\* 2018年度見通しはIFRSベース（事業利益）。但し日本基準との差異は僅少。



新日鐵住金

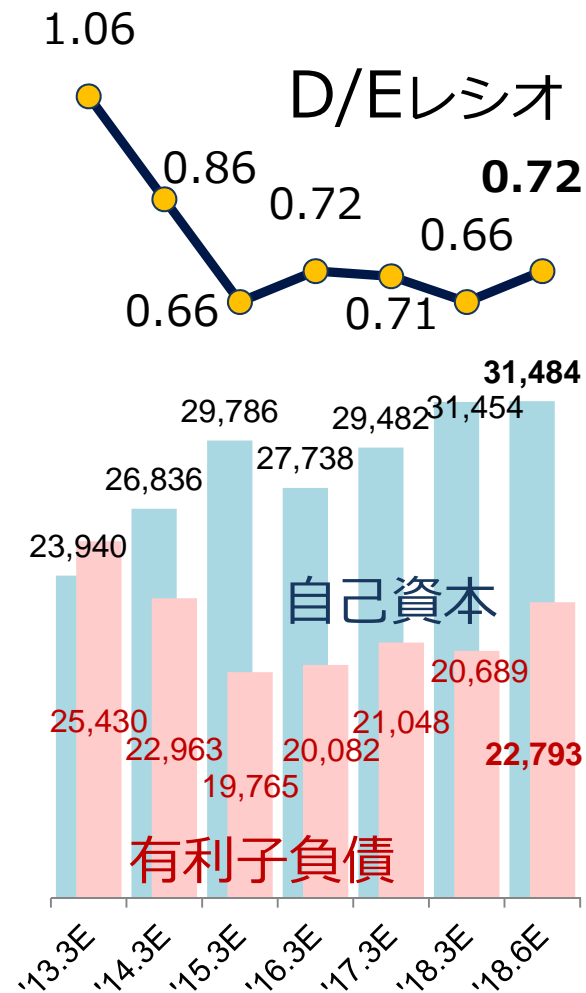
2019年4月 日本製鉄へ

# 貸借対照表

(億円)	2018年 3月末	2018年 6月末	(億円)	2018年 3月末	2018年 6月末
流動資産合計	23,995	24,409	負債合計	40,108	41,259
たな卸資産	13,800	14,367	有利子負債	20,689	22,793
固定資産合計	51,268	51,990	純資産合計	35,155	35,140
有形固定資産	28,749	29,565	自己資本	31,454	31,484
投資有価証券	8,713	8,485	評価差額金*	3,131	2,990
関係会社株式	10,696	10,178	非支配株主持分	3,700	3,656
資産合計	75,263	76,399	負債純資産合計	75,263	76,399

	2018年3月末	2018年6月末	増減
総資産 (億円)	75,263	76,399	+1,136
有利子負債(〃)	20,689	22,793	+2,103
自己資本 (〃)	31,454	31,484	+30
D/Eレシオ (倍)	0.66	0.72	+0.06

## D/Eレシオ



\* その他有価証券評価差額金

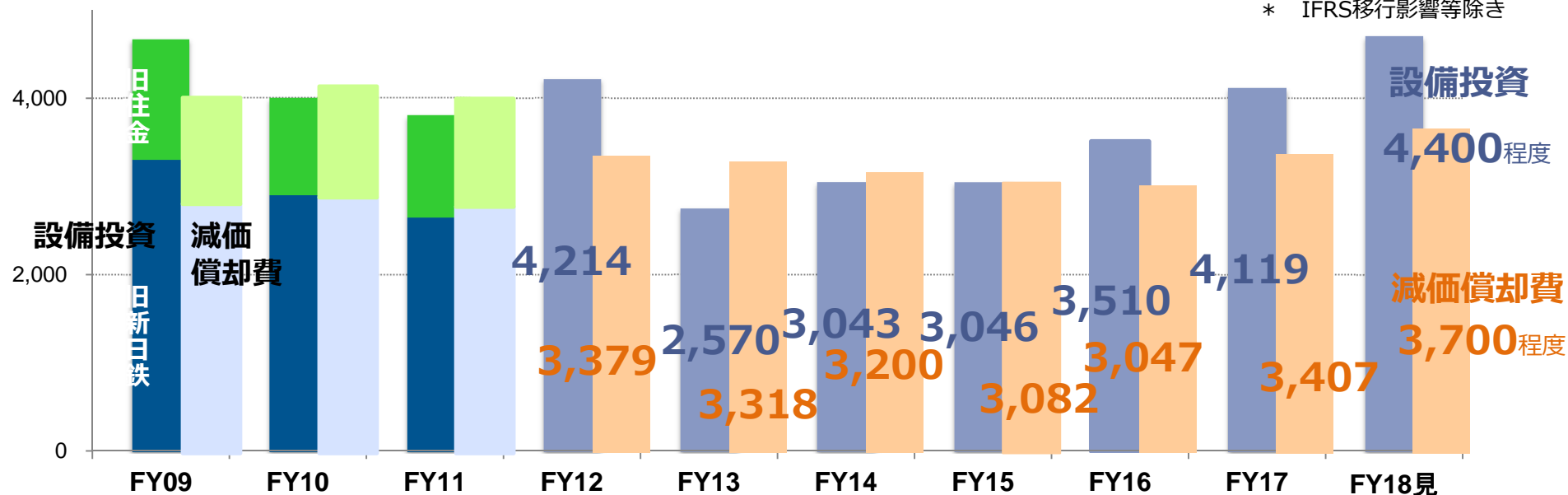


# 設備投資・減価償却費

(単位：億円)

新日鐵住金 (上段:新日鉄 下段:住金)	FY09	FY10	FY11	FY12	FY13	FY14	FY15	FY16	FY17	FY18見	FY17→ FY18見 差異
設備投資 <工事ベース>	4,660 (3,294) (1,366)	3,971 (2,872) (1,099)	3,974 (2,817) (1,157)	4,214	2,570	3,043	3,046	3,510	4,119 <small>内、日新製鋼 361億</small>	4,400* 程度	+280* 程度
減価償却費	4,049 (2,841) (1,208)	4,178 (2,916) (1,262)	4,038 (2,809) (1,229)	3,379	3,318	3,200	3,082	3,047	3,407 <small>内、日新製鋼 346億</small>	3,700* 程度	+290* 程度

\* IFRS移行影響等除き



## 2. 2018年度見通し



# 2018年度下期・年度見通し

	FY2017		FY2018				差異	
	上期	年度	上期見通し		下期見通し	年度見通し	17/上→ 18/上見	18/上見→ 18/下見
	[日本基準]	[日本基準]	[日本基準]	[IFRS]	[IFRS]		[日本基準]	[IFRS]
売上高 (連結) (億円)	27,450	56,686	30,000	30,000	33,000	63,000	+2,550	+3,000
経常 / 事業利益* (億円)	1,576	2,975	1,500	1,600	1,900	3,500	-76	+300
製鉄	1,287	2,457	1,300	1,400	1,600	3,000	+13	+200
当期利益** (億円)	991	1,950	1,300	1,100	1,300	2,400	+309	+200
R O S	5.7%	5.2%	5.0%	5.3%	5.8%	5.6%	-0.7%	+0.4%
一株当たり当期利益	[112.3]	[221.0]	[147.0]	[125.0]	[144.0]	[269.0]	[+34.7]	[+19.0]
粗鋼生産量(連結) (万t)	2,312	4,682	2,440 程度		2,510 程度	4,950 程度	+128 程度	+70 程度
粗鋼生産量(単独) (万t)	2,009	4,067	2,130 程度		2,200 程度	4,330 程度	+121 程度	+70 程度
鋼材出荷量 (万t)	1,872	3,779	1,980 程度				+108 程度	

\* 事業利益 = 税金等調整前当期純利益から負担金利と個別開示項目を除いたもの  
(個別開示項目 = 当社グループの営業活動と関連が低く金額的影響が大きい非定期的項目)

\*\* 親会社株主に帰属する当期純利益

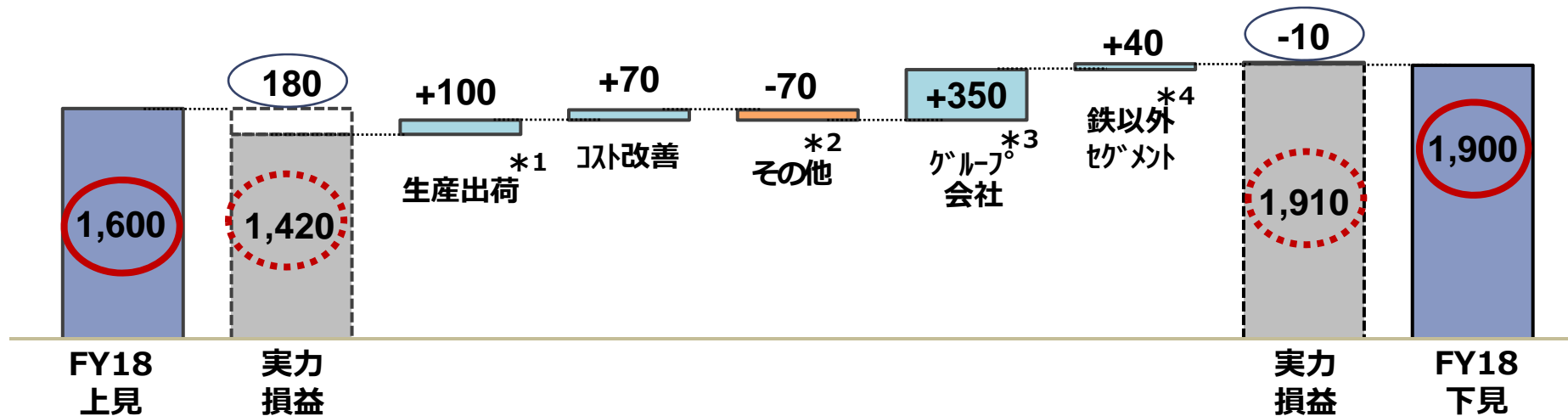
# 事業損益分析 (FY18/上見→FY18/下見)【IFRS】

(単位:億円)	FY18/上期 [A]	FY18/下期 [B]	増減 [A→B]
<b>事業利益</b>	<b>1,600</b>	<b>1,900</b>	<b>+300</b>
製鉄	1,400	1,600	+200
鉄以外セグメント	235	280	+45
調整額	-35	20	+55

- \*1 粗鋼+70万ト程度 (2,130程度→2,200程度)
- \*2 為替+ +10、減価償却費増、7月豪雨影響戻り、等
- \*3 日新製鋼、海外事業会社等
- \*4 エンジニアリング+30、化学-10、新素材+3、NSSOL+13

■ 増益要因  
■ 減益要因

<一過性>	18上見	18下見	増減
在庫評価差	+60	~	▲60
為替差損益	+50	~	▲50
Gr会社一過性	+70	▲10	▲80
<b>合計</b>	<b>+180</b>	<b>▲10</b>	<b>▲190</b>



# 日本基準→IFRS 基準差

	2018上期見通し	
	経常/事業利益	当期利益
<b>日本基準</b>	<b>1,500</b>	<b>1,300</b>
<b>IFRS*</b>	<b>1,600</b>	<b>1,100**</b>
<b>差異</b>	<b>+100</b>	<b>-200</b>
1. 会計処理差異	<b>+0</b>	<b>-200</b>
のれん非償却化	+60	+60
退職給付関連等	-60	-60
投資有価証券関連	—	-200
2. 表示組替	<b>+100</b>	—
金融収支	+100	—

## <今後の公表における両基準の取扱いについて>

### 【制度開示】

- ・2018年度1~3Q決算：日本基準で開示
- ・2018年度決算：IFRS基準で開示
- ・2019年度1~3Q決算公表時に  
前年同期（2018年度1~3Q実績）IFRS基準  
確定値を開示

### 【参考開示】

- ・2018年度2Q決算公表時に、2018上期事業損益  
IFRS試算値を記載予定
- ・2018年度決算公表時に、2018年度経常損益  
日本基準試算値を記載予定

数理差異の非償却化（ノンリサイクリング化）等

株式売却時の損益非計上化（ノンリサイクリング化）

支払金利・受取金利は事業損益外へ

\*IFRS適用後も、有形固定資産の償却方法は定率法を継続

\*\*2018上期見通しのIFRSベース数値は試算値

© 2018 NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL CORPORATION All Rights Reserved.



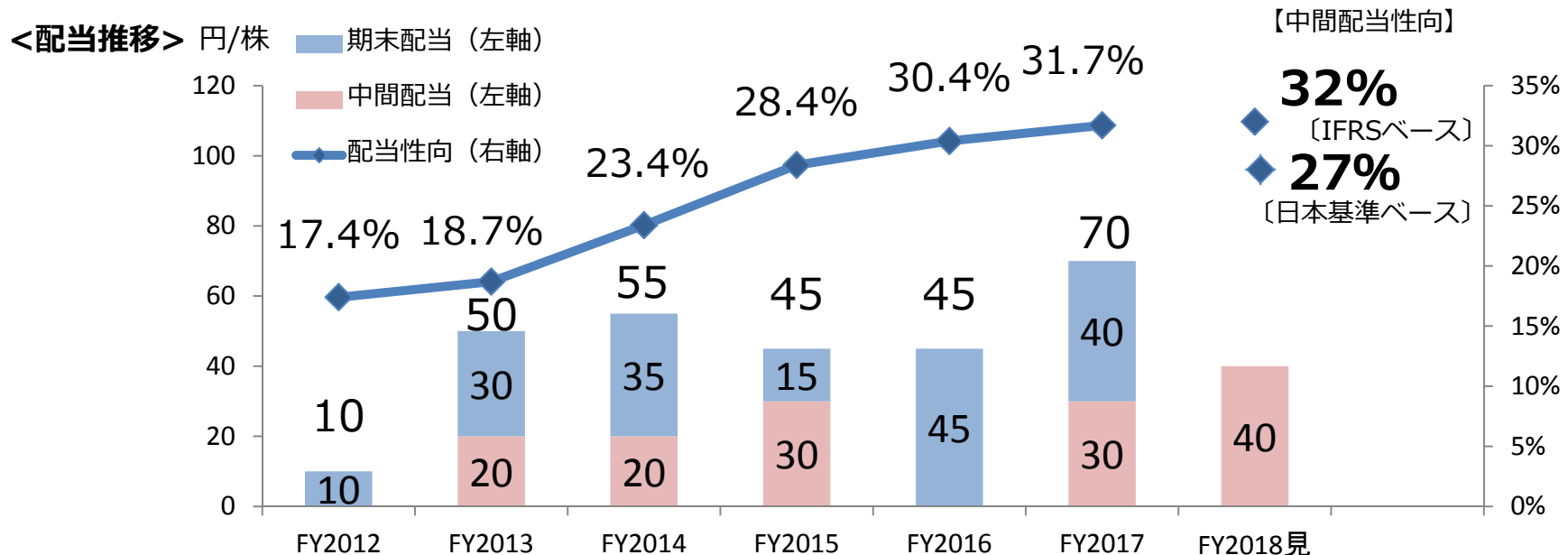
新日鐵住金

2019年4月 日本製鉄へ



# 当期末の剰余金の配当

当第2四半期末の剰余金の配当については、既公表の配当方針に従い、  
当期の業績見通し等を踏まえ、1株につき40円  
(連結配当性向 (IFRSベース) 32%) とさせていただく予定と致します。



## < 剰余金の配当等の決定に関する方針 >

当社は、業績に応じた利益の配分を基本として、企業価値向上に向けた投資等に必要な資金所要、先行きの業績見通し、連結及び単独の財務体質等を勘案しつつ、第2四半期末及び期末の剰余金の配当を実施する方針と致しております。

「業績に応じた利益の配分」の指標としては、連結配当性向年間30%程度を目安と致します。

なお、第2四半期末の剰余金の配当は、中間期業績及び年度業績見通し等を踏まえて判断することとしております。

※ 2015年10月1日を効力発生日として、10株を1株とする株式併合を実施したため、2012年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり配当額を算定



# 技術先進性の発揮

## 環境配慮型油井管用ねじ継手 「CLEANWELL® DRY」新製品発売 環境規制の最も厳しい北海地域で使用開始

- ✓ 有害な重金属を多量に含むグリスの使用をゼロ化
  - ✓ 高い防錆性を実現、油井管同士の繰り返し連結を可能化
  - ✓ メンテナンス・取扱い・リペアが容易
- 環境対応&油田開発プロジェクトのコスト低減に貢献



## 日立製作所 鉄道ビジネスユニットより サプライヤーオブザイヤー受賞

- ✓ 車輪や車軸、台車等の高品質・高性能な鉄道車両品を長年納入
- ✓ 日立のグローバルプロジェクトに対する積極的な協力



## 「Top100 グローバル・イノベーター 2017」を受賞 ～世界で最も革新的な企業 トップ100社に6年連続で選出～





にっぽんせいてつかぶしきかいしゃ

# 日本製鉄株式会社

2019年4月～商号変更

歴史ある鉄鋼各社との  
統合連携拡大



日新製鋼



山陽特殊製鋼

世界で成長を続ける  
日本発祥の鉄鋼会社

2012年10月  
経営統合



## 新日鐵住金



### 新日本製鐵



### 住友金属



### 3. 中期経営計画の進捗状況



# 特殊鋼事業の再編・強化 ～スキーム概要

## 現状



## 特殊鋼事業の再編・強化

① 山陽特殊製鋼による  
第三者割当増資を  
当社が引受



② 当社から  
山陽特殊製鋼へ  
OVAKO全株式を譲渡



## 再編後



# 特殊鋼事業再編の狙い・シナジー効果

お客様のグローバル化進展と高品質ニーズに対応  
 新日鐵住金グループでシナジー100億円/年程度の発揮を目指す

グループ全体での  
 効率的生産の追及

地域別  
 最適生産  
 体制構築

操業  
 ノウハウ  
 共有

海外生産  
 拠点・物流網  
 の相互活用

お客様への対応力強化

営業・販売  
 ネットワーク  
 相互活用

共同研究開発に  
 よる提案力強化

調達コスト削減

原料輸送  
 効率化

集中購買

 **新日鐵住金**

 **山陽特殊製鋼**

**OVAKO**

事業基盤と  
 技術力  
 商品開発力を  
 融合

新日鐵住金グループの  
 一員として  
 グローバル経営を  
 はじめとしたサポート  
**安定した経営基盤構築**

**一体的事業運営**  
 高纯净度鋼技術の融合  
 営業・物流ネットワーク活用

新日鐵住金グループでの  
 シナジー発揮

山特・OVAKOでの  
 シナジー発揮  
**50億円/年以上**  
 を目指す

# 今後のスケジュール

## 2018年8月2日 契約締結

- ①新日鐵住金による山陽特殊製鋼子会社化
- ②新日鐵住金によるOVAKO株式の山陽特殊製鋼への譲渡

## 2018年8月以降 国内外の競争当局からの承認取得

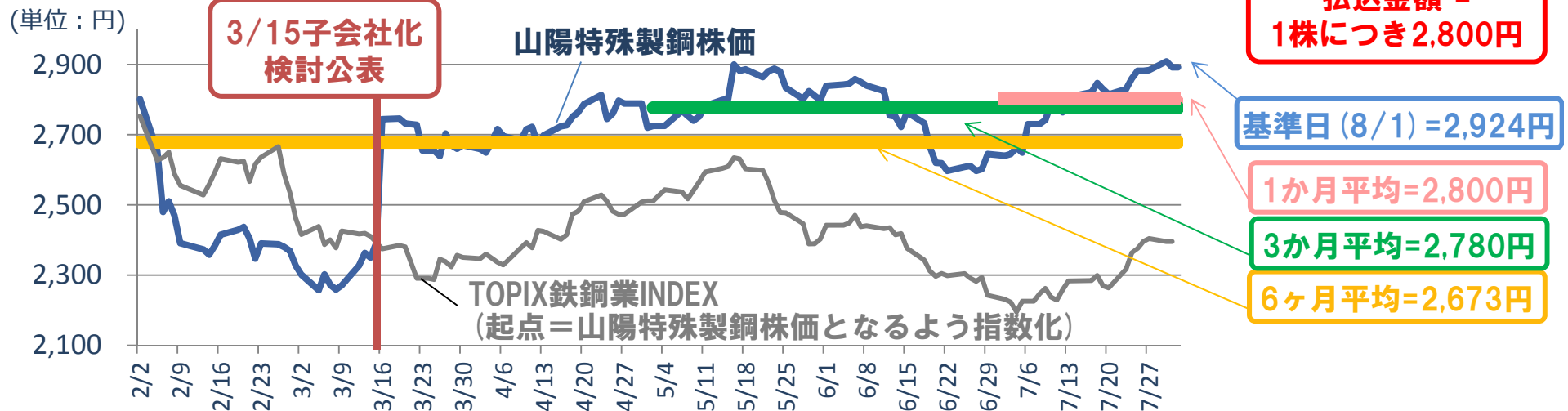
## 2019年2月目途 山陽特殊製鋼 臨時株主総会

## 2019年3月28日(予定) 第三者割当増資払込期日 OVAKO全株式譲渡

- Cf.1 OVAKOの新日鐵住金連結決算への反映  
BS：2018.1Q末～  
PL：新日鐵住金の2018.3Q決算(10-12月)に、OVAKO社の3Q(7-9月)を連結開始
- Cf.2 OVAKOの山陽特殊製鋼連結決算への反映(予定)  
BS：2018.4Q末～  
PL：山陽特殊製鋼の2019.1Q決算(4-6月)に、OVAKO社の1Q(1-3月)を連結開始

なお、子会社化後も山陽特殊製鋼は上場を維持する予定

## ■(参考) 山陽特殊製鋼株価推移



新日鐵住金

2019年4月 日本製鉄へ

# 当社 特殊鋼棒線事業 概要

【製鉄所・製造所】



	室蘭製鉄所	八幡製鉄所 (小倉地区)
粗鋼生産量 (FY2017)	143万 t /年	120万 t /年

【特殊鋼品質対応力・生産能力向上への取り組み】

## 八幡製鉄所 新鋭連続铸造設備新設 鉄源設備集約

(2016年3月30日公表)

(2019年度～)戸畑地区 最新鋭連铸機稼働  
(2020年度末目途)小倉地区鉄源設備休止  
小倉地区特殊鋼棒線生産は現行水準維持

## 室蘭製鉄所 三菱製鋼(株)との合併事業深化

(2017年4月28日公表)

三菱製鋼室蘭特殊鋼(株)への鋼片製造委託数量拡大  
三菱製鋼室蘭特殊鋼(株)の品質確保のための体制整備・技術供与



新日鉄住金

2019年4月 日本製鉄へ

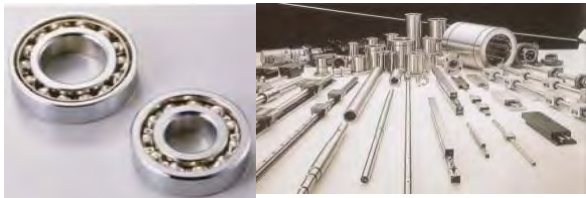


# 山陽特殊製鋼・OVAKO社 製品概要

## 山陽特殊製鋼

### 軸受用鋼 高炭素加ム鋼等

ベアリング 直線運動軸受



### 合金鋼 機械構造用合金鋼等

自動車用シャフト トランスミッション用ギア ディファレンシャル用ギア



### 高合金鋼 ステンレス鋼、耐熱鋼、工具鋼等

精密鋼管・精密部品 電線用インバー合金 熱間押出用金型



## OVAKO

### BQ-Steel Bearing Quality



部品の小型化・高負荷化に対応  
長寿命化に貢献する高 cleanliness 鋼

### IQ-Steel Isotropic Quality



更に高い疲労強度を実現する超 high cleanliness 鋼  
部品信頼性向上に貢献

### 特殊鋼市場

自動車・産業機械・  
電子機器・ロボット・  
風力発電等、  
様々な産業の  
重要部品の素材として  
高い信頼性が必要

今後も需要は堅調に成長  
高品質へのニーズは  
ますます増大

### WR-Steel Wear Resistant



重機等の長寿命に貢献する耐摩耗鋼  
優れた加工性・溶接性により柔軟な設計が可能

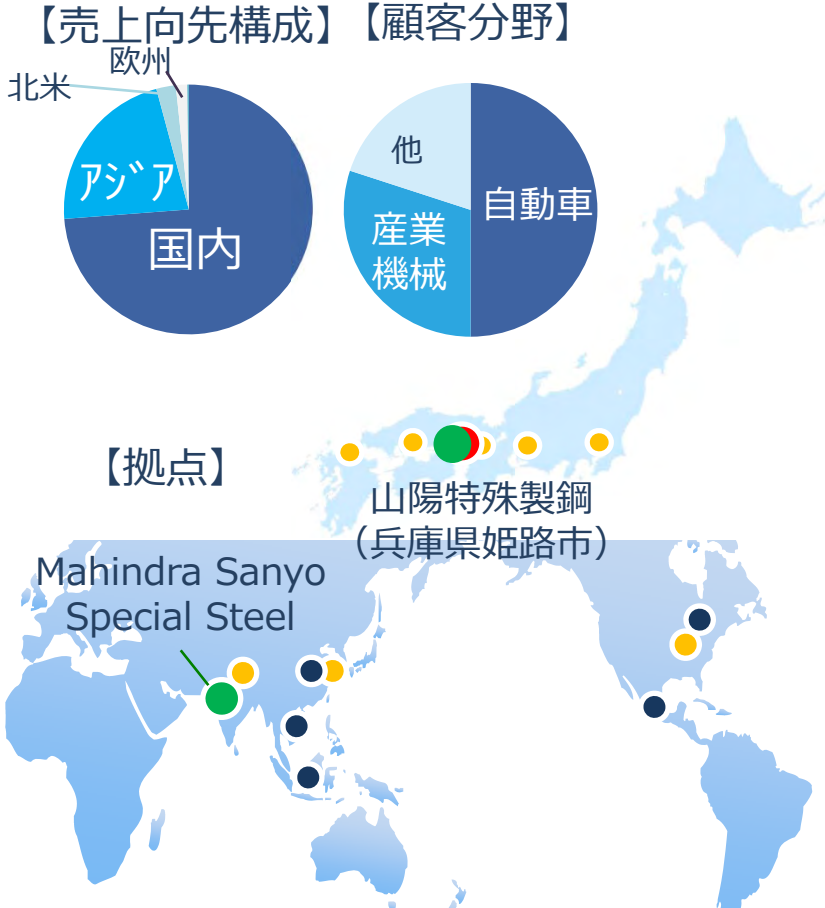
### M-Steel Machinability



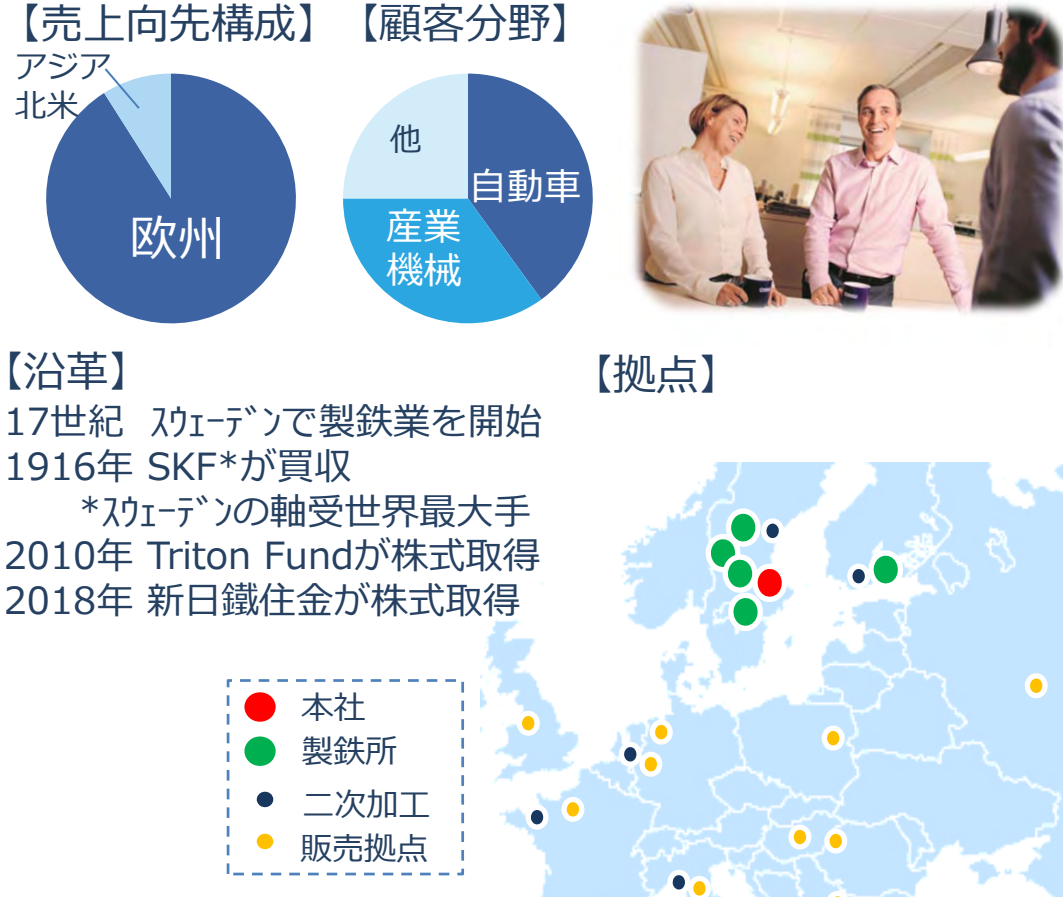
切削加工性に優れた快削鋼  
部品メーカーの生産性・コスト改善・  
工具寿命延長に貢献

# 山陽特殊製鋼・OVAKO社 市場・拠点概要

## 山陽特殊製鋼



## OVAKO



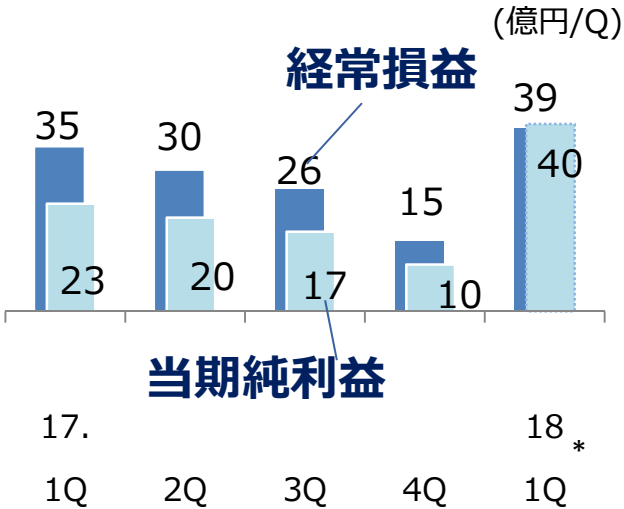
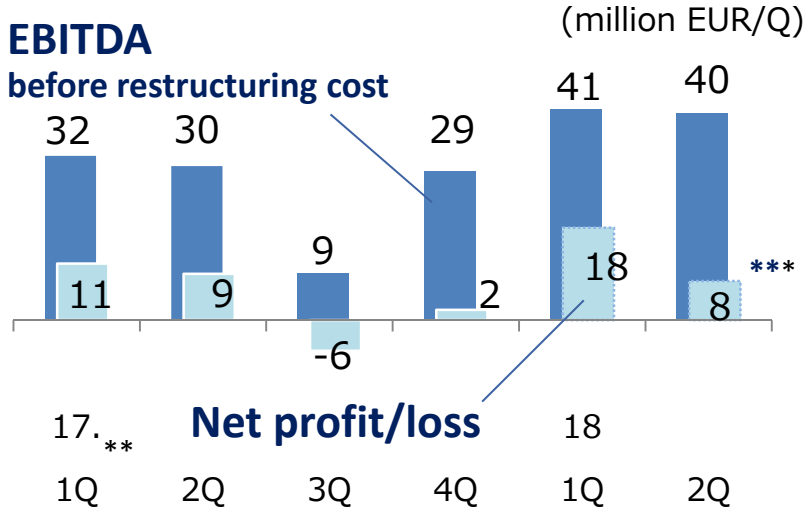


cf. 世界の主要ベアリングメーカー

山陽特殊製鋼、OVAKOは下記の手ベアリングメーカーへの主要サプライヤー

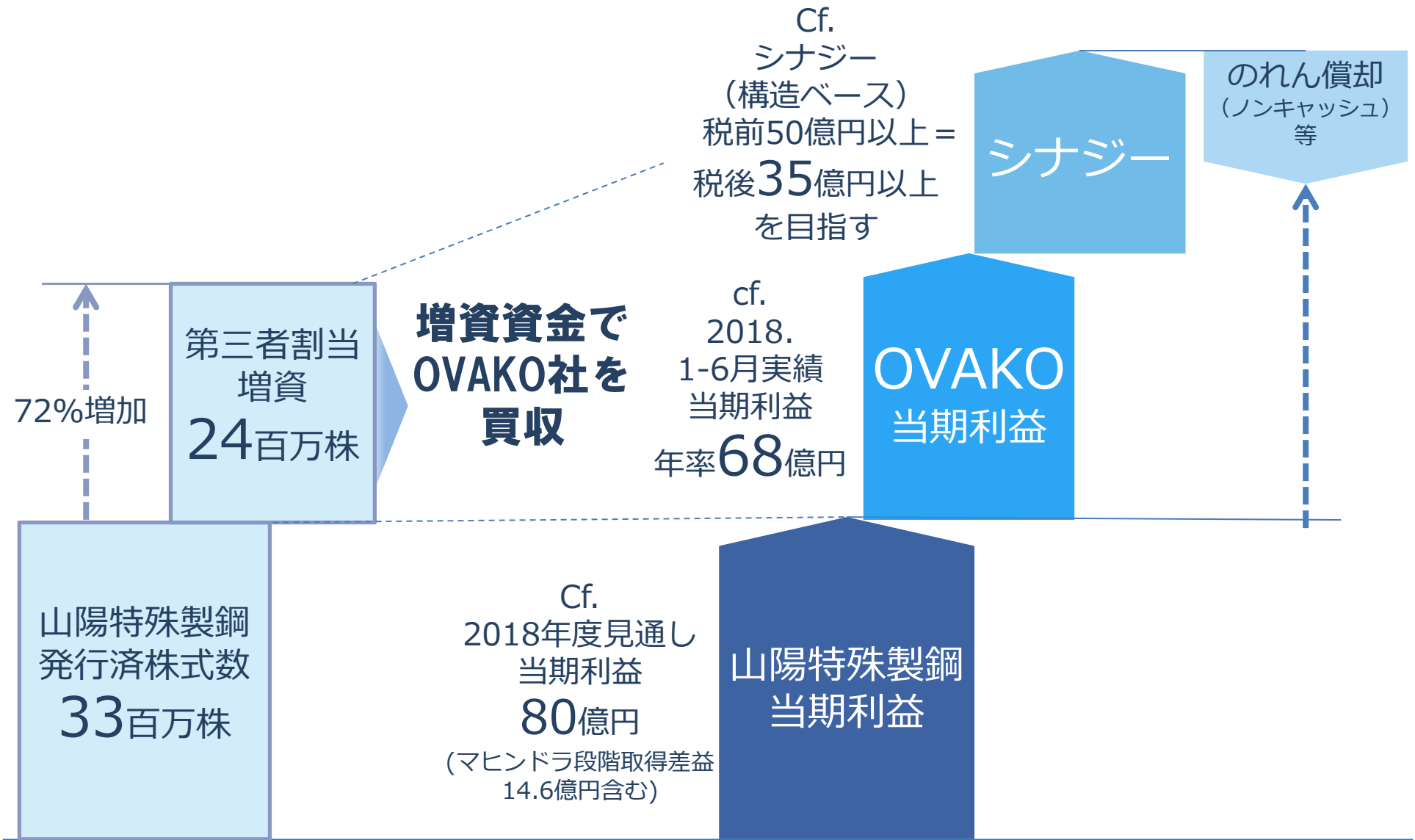
- ①SKF(スウェーデン) ②Schaeffler (独) ③日本精工 (日) ④NTN (日) ⑤ジェイテクト (日)

# 山陽特殊製鋼・OVAKO社 財務概要

	 <b>山陽特殊製鋼</b> FY2017	 <b>CY2017</b> 130円/€前提
粗鋼生産量	130万 t/年 (電炉2基)	101万 t/年 (電炉3基)
販売数量	107万 t/年	78万 t/年
売上高	1,574億円	921百万€ (約1,200億円)
当期利益	70億円 【18年度見通し 80億円】	15.2百万€ (約20億円) 【18.1-6月実 26百万€ (約34億円)】
総資産	2,102億円	743百万€ (約970億円)
剰有利子負債	284億円	251百万€ (約346億円)
従業員	2,666名	約3,000名
業績推移	 <p>(億円/Q)</p> <p><b>経常損益</b></p> <p><b>当期純利益</b></p> <p>17. 1Q 2Q 3Q 4Q 18. 1Q *</p>	 <p>(million EUR/Q)</p> <p><b>EBITDA before restructuring cost</b></p> <p><b>Net profit/loss</b></p> <p>17. 1Q 2Q 3Q 4Q 18. 1Q 2Q ***</p>

\*山特18.1Q 当期純利益は、マシナリ段階取得差益(14.6億円)含む  
 \*\*OVAKO 1Q=1-3月  
 \*\*\*OVAKO 18.2Q Net Profitは社債期限前償還費等一過性費用(12.2mil€)含む

# 山陽特殊製鋼連結損益への影響イメージ



- ① 日新製鋼の完全子会社化 (2019年1月予定) (5/16公表)
- ② 日新製鋼・新日鐵住金ステンレス・新日鐵住金の  
ステンレス鋼板事業統合 (2019年4月予定) (5/16公表)
- ③ 溶接ステンレス鋼管事業統合 (8/2公表)  
2018年8月2日 基本合意書締結

## TIG溶接鋼管\*・レーザー溶接鋼管\*事業

### 日新製鋼ステンレス鋼管と 日鉄住金ステンレス鋼管の合併 (2019年4月予定)

\*TIG溶接：タングステン等を用いたアーク溶接      レーザー溶接：レーザー光を熱源とした溶接

＜主要用途＞

- ・化学プラント配管
- ・ボイラー配管 等

## 自動車用ステンレス電縫鋼管 (ERW) 事業

### 日新製鋼のERW事業\*\*を日鉄住金鋼管(株)に集約 (2019年4月予定)

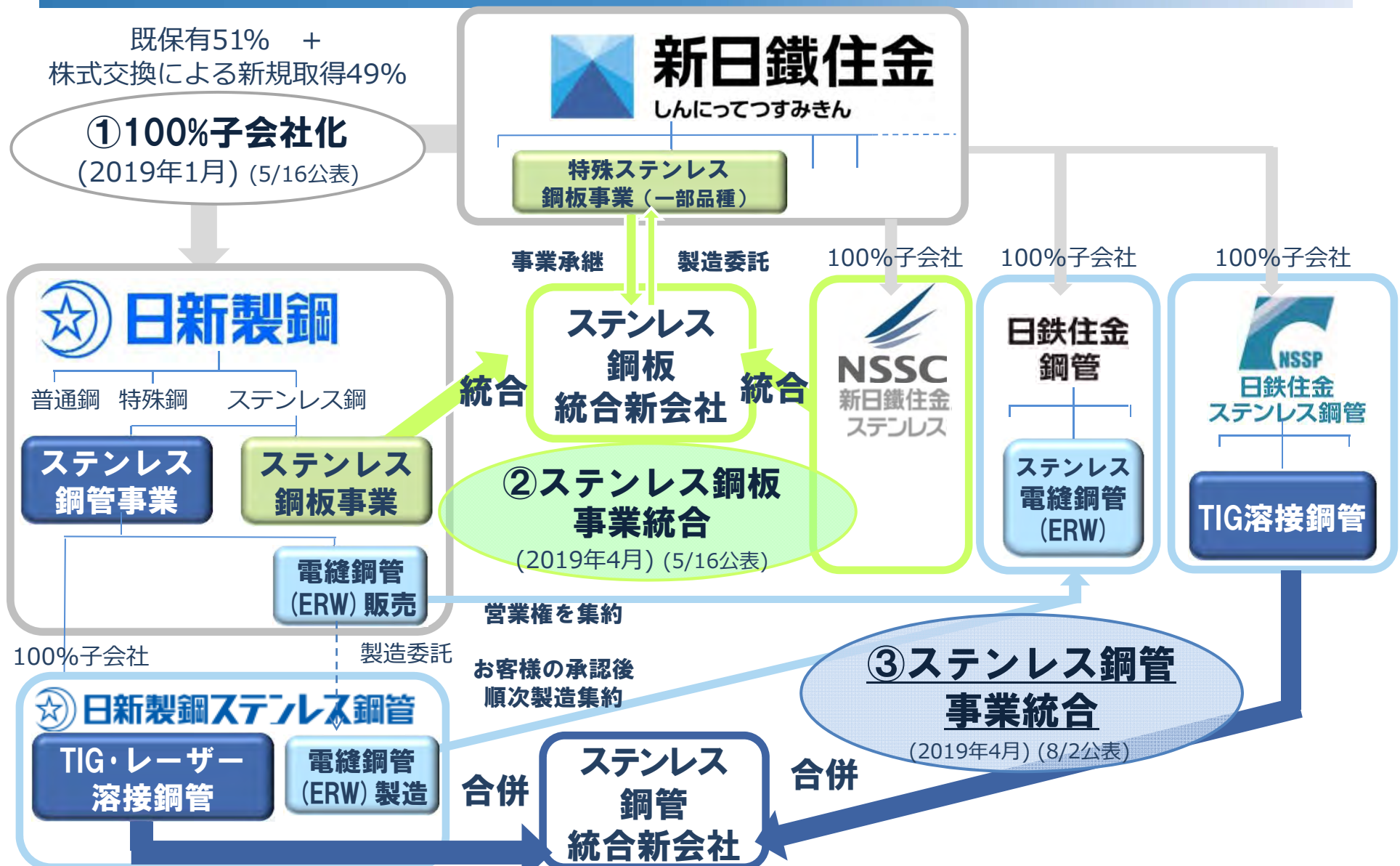
＜主要用途＞

- ・自動車の排気ガス  
処理装置(マフラー)
- ・給油管 等

\*\*日新製鋼ERW事業

日新製鋼が販売	⇒	2019年4月に日鉄住金鋼管(株)に営業権集約
日新製鋼ステンレス鋼管が製造	⇒	お客様の承認後、順次日鉄住金鋼管(株)に製造集約

# スキーム概要



\*日新製鋼の電縫鋼管(ERW)は、日新製鋼が販売、日新製鋼ステンレス鋼管が製造受託

日新製鋼子会社化（2017.3月）シナジー200億円に加えて  
日新製鋼完全子会社化・ステンレス事業統合・再編効果で  
更に100億円/年程度の創出 → 競争力の強化

日新製鋼完全子会社化（2019年1月予定）  
ステンレス鋼板・鋼管事業統合（2019年4月予定）

## 厳しい事業環境

### <供給サイド>

中国における大幅過剰能力と  
世界的な供給過剰状態の継続

Ni鉱石から製品迄の  
一貫製造を手掛けるメーカーの台頭  
メガミル化




### <需要サイド>

米国・欧州・ASEANにおける  
保護主義化

産業構造変化による  
新規需要の創出・既存需要の縮減

# ステンレス事業 事業規模

## 再編後

	ステンレス鋼板新会社	  ステンレス鋼管	ステンレス鋼管新会社  日鉄住金鋼管
	ステンレス鋼板・棒線事業	内、TIG・レーザー溶接管事業	内、ステンレス電縫管事業
販売数量	150万 t 程度/年	3.5万 t 程度/年	3.5万 t 程度/年
売上高	4,000億円程度/年	250億程度/年	100億程度/年

## 現状

	 新日鐵住金 <small>しんにってつすみぎん</small>	 NSSC 新日鐵住金 ステンレス (鋼板・棒線)	 日新製鋼	 日新製鋼 ステンレス鋼管 (TIGレーザー溶接鋼管)	 NSSP 日鉄住金 ステンレス鋼管	 日鉄住金 鋼管 内、溶接ステンレス鋼管事業
2017年度	内、特殊ステンレス事業		内、ステンレス事業 (鋼板・鋼管)			
販売数量	約3万t/年	97万t/年	56万t/年	約4万t/年	約2万t/年	約2万 t /年
売上高		2,588億円/年	1,750億円/年	143億円/年	147億円/年	



## 4. 参考データ



# 主要需要分野の活動水準

〔国内〕		FY17					年度	FY18			差異	
		1Q	2Q	上期	4Q	下期		1Q	2Q 見通し *2	上期 見通し *2	17/1Q → 18/1Q	17/上 → 18/上見 *2
建設	住宅着工戸数 (万戸)	25	25	50	21	45	95	25	23	48	-0	-2
	非住宅着工面積 (万㎡)	1,390	1,405	2,795	1,242	2,536	5,331	1,338	1,417	2,755	-52	-40
	公共工事受注*1 (10億円)	1,920	2,958	4,877	2,936	5,631	10,508	1,900	3,000	4,900	-20	+23
自動車	完成車生産台数 (万台)	230	237	467	253	501	968	232	243	475	+2	+8
	完成車輸出台数 (万台)	112	119	231	120	248	479	121	121	239	+9	+8
	海外生産 (8社) (万台)	474	474	948	491	981	1,929	488			+14	
産業機械	大中型ショベル (千台)	20	20	40	20	39	79	22	20	42	+2	+2
	金属工作機械 (千ト)	102	113	215	127	243	458	104	118	222	+2	+7
造船	新造船起工 (万GT)	318	291	609	285	600	1,209	300	300	600	-18	-9

リグカウント状況	CY09	CY10	CY11	CY12	CY13	CY14	CY15	CY16	CY17	直近	直近比 <sup>○</sup> -%	直近比 <sup>△</sup>
米国	1,089	1,546	1,875	1,919	1,761	1,862	977	510	875	1,054 ('18/7)	2,031 ('08/9)	404 ('16/5)
深井戸(≥15,000ft)	249	249	395	324	326	354	205	126	222	251 ('18/4)	413 ('11/11)	98 ('16/5)
北米・露・中を除く世界	997	1,094	1,167	1,234	1,296	1,337	1,167	955	948	959 ('18/6)	1,382 ('14/7)	920 ('16/10)

出典：各種統計資料・当社推定 \*1 建設工事受注動態統計の公共工事受注額

\*2 7月上旬見込み値



新日鐵住金

2019年4月 日本製鉄へ

# 国内主要需要分野の鋼材消費

(単位：万ト)	FY17						FY18			差異	
	1Q	2Q	上期	4Q	下期	年度	1Q	2Q 見通し <sup>*1</sup>	上期	17/1Q → 18/1Q	17/上 → 18/上見
全国粗鋼生産量	2,609	2,594	5,204	2,641	5,280	10,484	2,657	2,654 <sup>*2</sup> 程度	5,311 程度	+48	+108 程度
国内鋼材消費	1,534	1,570	3,103	1,554	3,168	6,271	1,537	1,577	3,114	+3	+11
製造業比率 (%)	63.9	63.8	63.8	64.3	63.9	63.9	64.6	63.9	64.2	+0.7	+0.4
普通鋼鋼材消費	1,216	1,241	2,457	1,237	2,513	4,970	1,213	1,245	2,458	-3	+1
建設	533	547	1,079	533	1,099	2,178	523	546	1,070	-10	-10
製造業	683	695	1,378	704	1,415	2,792	690	698	1,388	+7	+11
㊦、造船	104	103	207	102	201	408	101	101	202	-3	-5
㊦、自動車	271	279	550	282	571	1,121	274	284	558	+3	+8
㊦、産業機械	122	125	247	127	253	500	128	126	254	+6	+7
㊦、電気機械	74	77	151	79	159	310	78	78	156	+4	+6
特殊鋼鋼材消費	318	328	646	318	654	1,301	324	332	656	+6	+10
鋼材輸入	172	165	337	162	321	658					
鋼材輸出	936	926	1,862	941	1,890	3,752					

出典：各種統計資料・当社推定

\*1 7月上旬見込み値

\*2 経済産業省発表 FY18.2Q鋼材需要見通し



新日鐵住金

2019年4月 日本製鉄へ

# 世界の経済成長率推移

<2018年7月16日IMF改定値>

[ ] 内の数値=前回 (2018年4月17日) IMF公表値

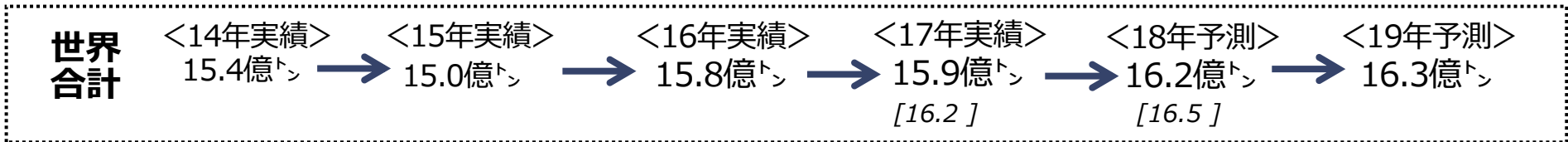
	CY08	CY09	CY10	CY11	CY12	CY13	CY14	CY15	CY16	CY17	CY18 見通し	CY19 見通し
<b>世界 合計</b>	3.0	-0.5	5.3	3.9	3.4	3.4	3.4	3.4	3.2	3.8	[3.9] 3.9	[3.9] 3.9
<b>先進諸国</b>	0.5	-3.4	3.2	1.7	1.2	1.4	1.9	2.1	1.7	2.3	[2.5] 2.4	[2.2] 2.2
<b>米国</b>	0.4	-2.6	3.0	1.8	2.3	2.2	2.4	2.6	1.5	2.3	[2.9] 2.9	[2.7] 2.7
<b>欧州</b>	0.6	-4.1	1.9	1.5	-0.7	-0.4	0.9	2.0	1.8	2.3	[2.4] 2.2	[2.0] 1.9
<b>日本</b>	-1.2	-6.3	4.4	-0.6	1.5	1.6	0.0	1.1	0.9	1.7	[1.2] 1.0	[0.9] 0.9
<b>新興諸国</b>	6.1	2.7	7.5	6.2	5.1	5.0	4.6	4.3	4.4	4.8	[4.9] 4.9	[5.1] 5.1
<b>中国</b>	9.6	9.2	10.4	9.3	7.7	7.7	7.3	6.9	6.7	6.9	[6.6] 6.6	[6.4] 6.4
<b>インド</b>	7.3	6.8	10.6	6.3	4.7	6.9	7.2	8.0	7.1	6.7	[7.4] 7.3	[7.8] 7.5
<b>ASEAN5*</b>	4.7	1.7	7.0	4.5	6.2	5.1	4.6	4.9	4.9	5.3	[5.3] 5.3	[5.4] 5.3
<b>ロシア</b>	5.6	-7.8	4.3	4.3	3.4	1.3	0.7	-2.8	-0.2	1.5	[1.7] 1.7	[1.5] 1.5
<b>ブラジル</b>	5.1	-0.6	7.5	2.7	1.0	2.7	0.1	-3.8	-3.5	1.0	[2.3] 1.8	[2.5] 2.5

出典：IMF      \* ASEAN 5：タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム



# 世界の鉄鋼需要推移（鋼材見掛消費） <2018年4月17日WSA改訂値>

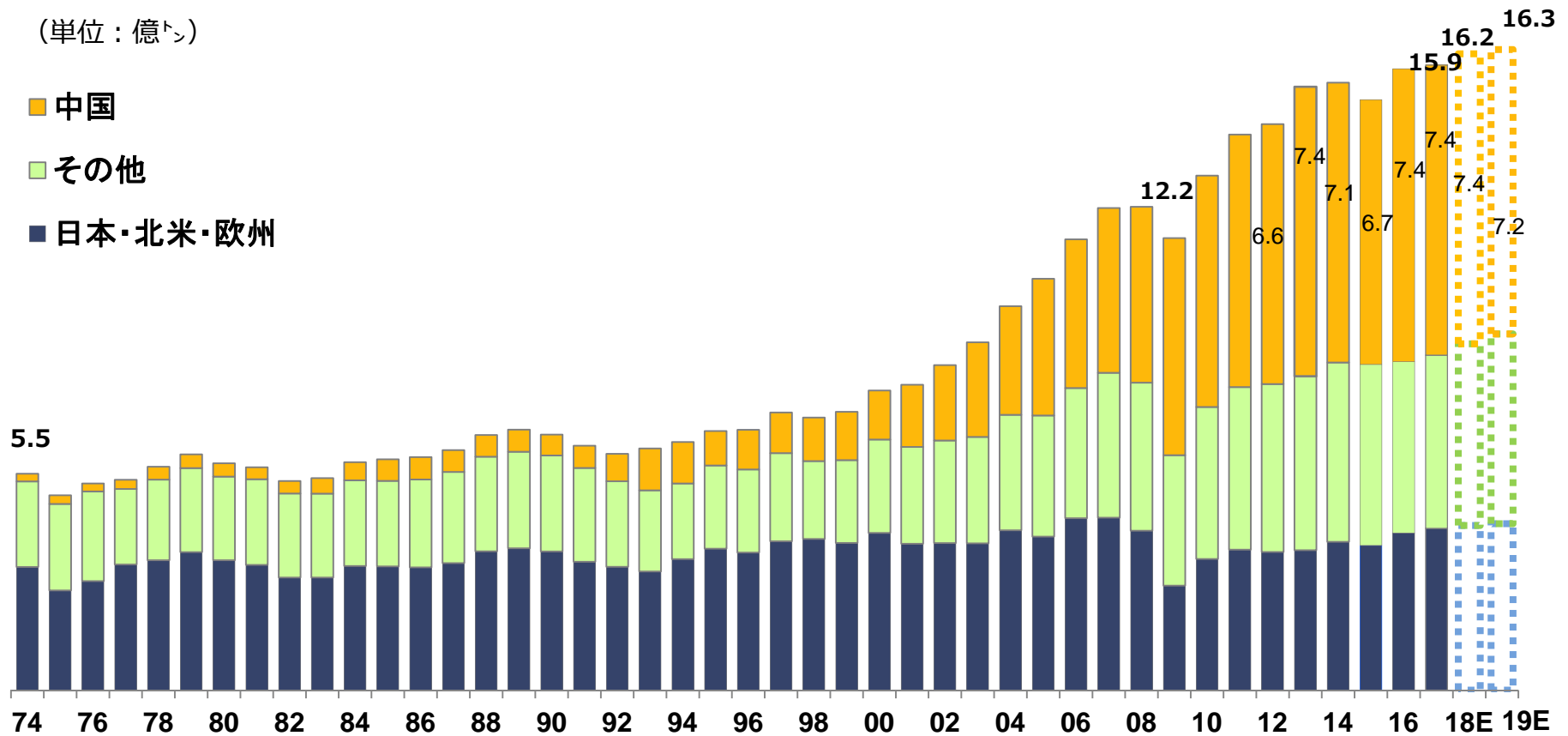
[ ] 内の数値=前回（2017年10月16日）WSA公表値



\*16年度より、地条鋼相当を含む

(単位：億トﾝ)

- 中国
- その他
- 日本・北米・欧州



出典：World Steel Association



# 世界月別粗鋼生産量

(百万ト)	CY17 [A]	CY18						CY17 年率換算 [C] (B*12/6)	差異 (A → C)
		1-3	4	5	6	4-6	1-6 [B]		
<b>世界計*</b> [前年同期比]	<b>1,673.0</b> [5.4%]	<b>425.1</b> [4.1%]	<b>148.2</b> [4.1%]	<b>154.4</b> [6.3%]	<b>151.4</b> [5.8%]	<b>454.0</b> [5.4%]	<b>881.5</b> [5.0%]	<b>1,762.9</b>	<b>+89.9</b> [5.4%]
<b>日本</b> [前年同期比]	<b>104.7</b> [-0.1%]	<b>26.4</b> [0.7%]	<b>8.7</b> [-0.4%]	<b>9.1</b> [1.9%]	<b>8.8</b> [4.2%]	<b>26.6</b> [1.8%]	<b>53.0</b> [1.3%]	<b>106.0</b>	<b>+1.3</b> [1.2%]
<b>韓国</b> [前年同期比]	<b>71.0</b> [3.6%]	<b>17.8</b> [2.9%]	<b>5.9</b> [7.2%]	<b>6.2</b> [3.1%]	<b>6.1</b> [3.2%]	<b>18.3</b> [4.4%]	<b>36.1</b> [3.7%]	<b>72.1</b>	<b>+1.1</b> [1.6%]
<b>米国</b>	<b>81.6</b>	<b>20.8</b>	<b>6.9</b>	<b>7.3</b>	<b>6.8</b>	<b>21.0</b>	<b>41.8</b>	<b>83.7</b>	<b>+2.1</b>
<b>EU28</b>	<b>168.4</b>	<b>43.3</b>	<b>14.7</b>	<b>14.9</b>	<b>14.4</b>	<b>44.1</b>	<b>87.3</b>	<b>174.7</b>	<b>+6.3</b>
<b>ロシア</b>	<b>71.5</b>	<b>17.8</b>	<b>6.1</b>	<b>6.1</b>	<b>6.1</b>	<b>18.3</b>	<b>36.1</b>	<b>72.1</b>	<b>+0.6</b>
<b>ブラジル</b>	<b>34.4</b>	<b>8.6</b>	<b>2.9</b>	<b>2.7</b>	<b>2.6</b>	<b>8.2</b>	<b>16.9</b>	<b>33.7</b>	<b>-0.6</b>
<b>インド</b>	<b>101.4</b>	<b>26.7</b>	<b>8.7</b>	<b>8.8</b>	<b>8.7</b>	<b>26.1</b>	<b>52.8</b>	<b>105.7</b>	<b>+4.3</b>
<b>中国</b> [前年同期比]	<b>831.7</b> [5.7%]	<b>210.8</b> [5.4%]	<b>76.7</b> [4.8%]	<b>81.1</b> [8.9%]	<b>80.2</b> [7.5%]	<b>238.0</b> [7.1%]	<b>451.2</b> [6.8%]	<b>902.3</b>	<b>+70.6</b> [8.5%]

出典：World Steel Association \* 世界64カ国の合計値

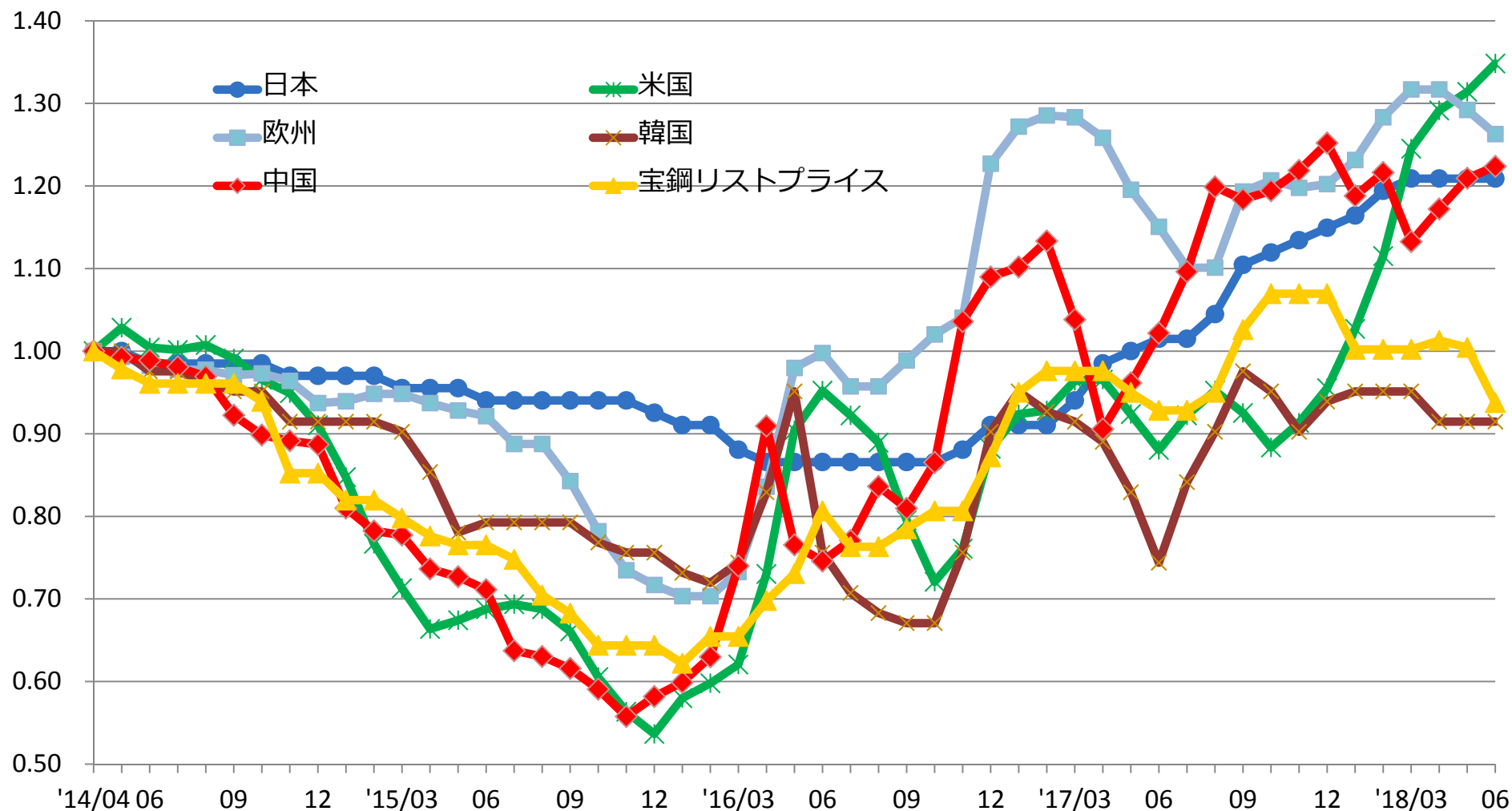


新日鐵住金

2019年4月 日本製鉄へ

# 世界各国ホットコイル市況推移

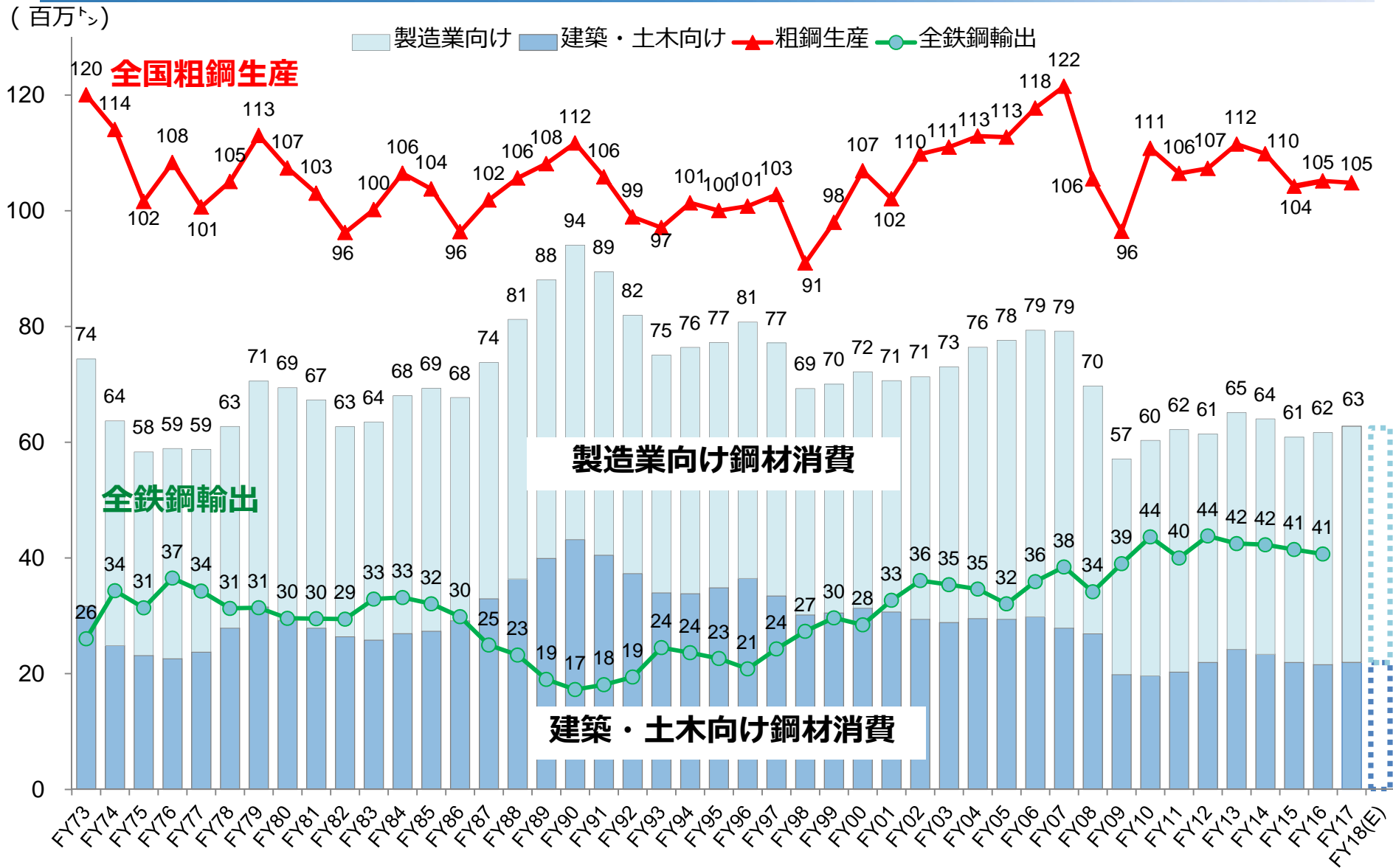
(2014年4月各現地通貨ベースホットコイル価格=1.0)



出典：日本鉄鋼連盟等データより当社作成



# 国内鋼材消費推移



出典：各種統計資料・当社推定



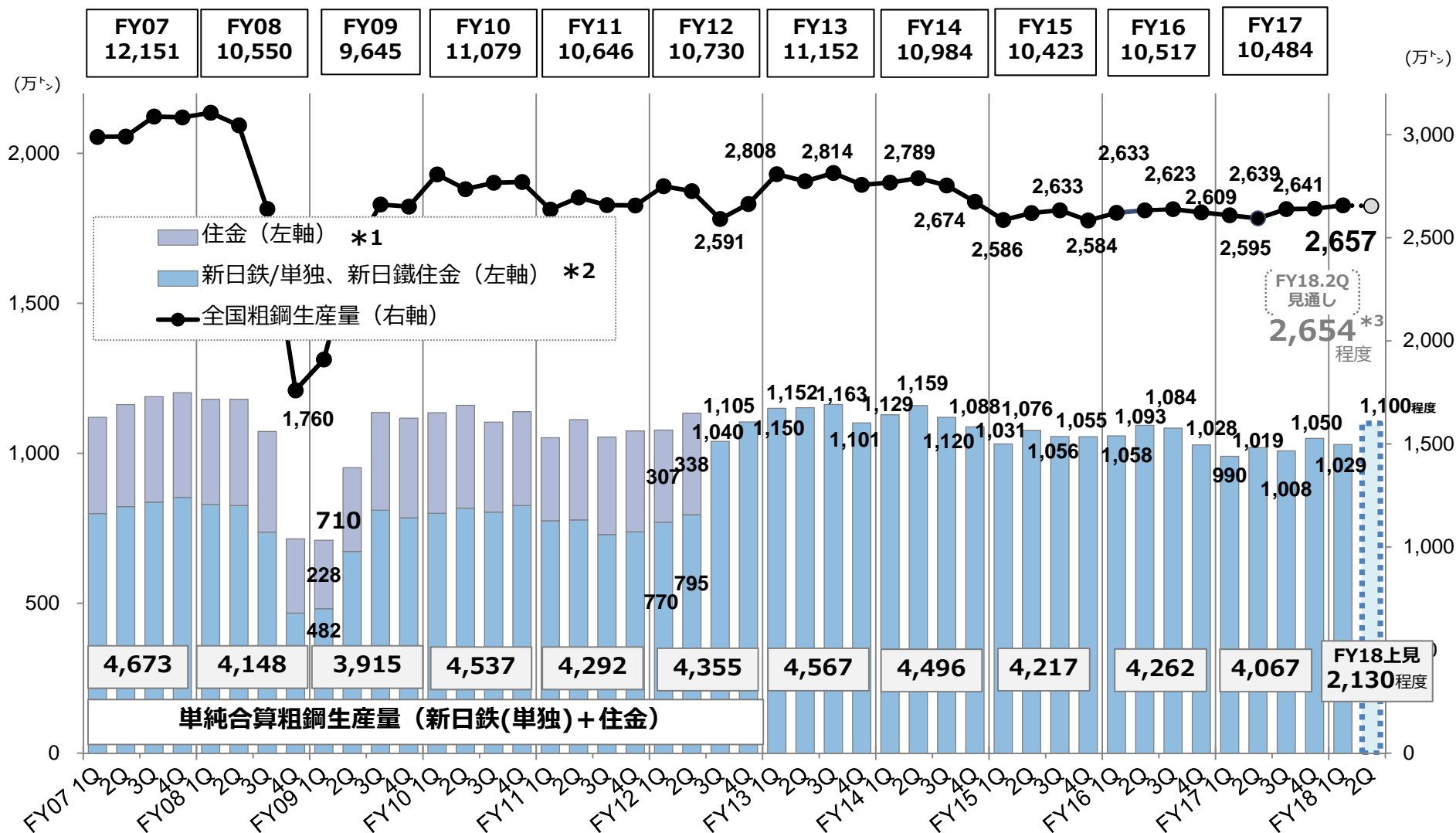
新日鐵住金

2019年4月 日本製鉄へ



# 国内粗鋼生産量 四半期別推移

全国粗鋼生産量



\*1 住金：旧住金小倉・住金直江津・住金鋼鉄和歌山含み  
 \*3 経済産業省発表 FY18.2Q鋼材需要見通し

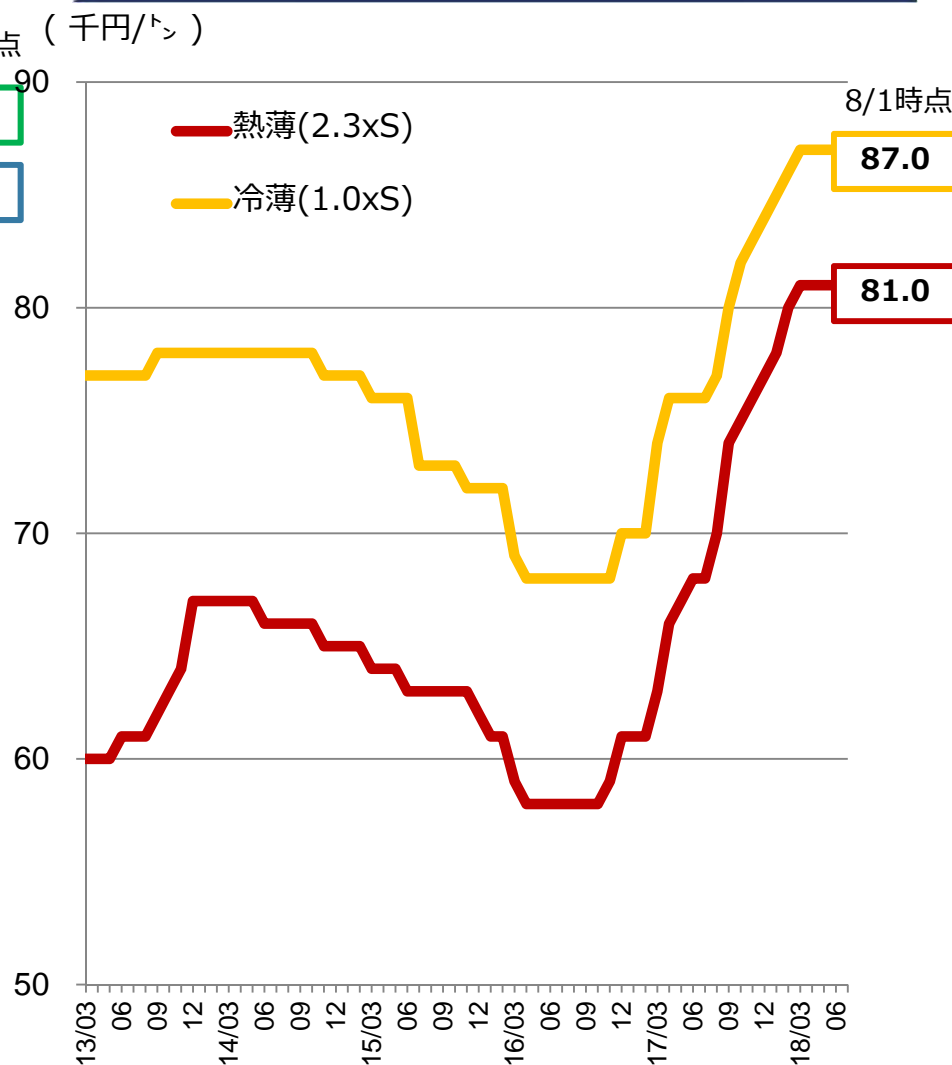
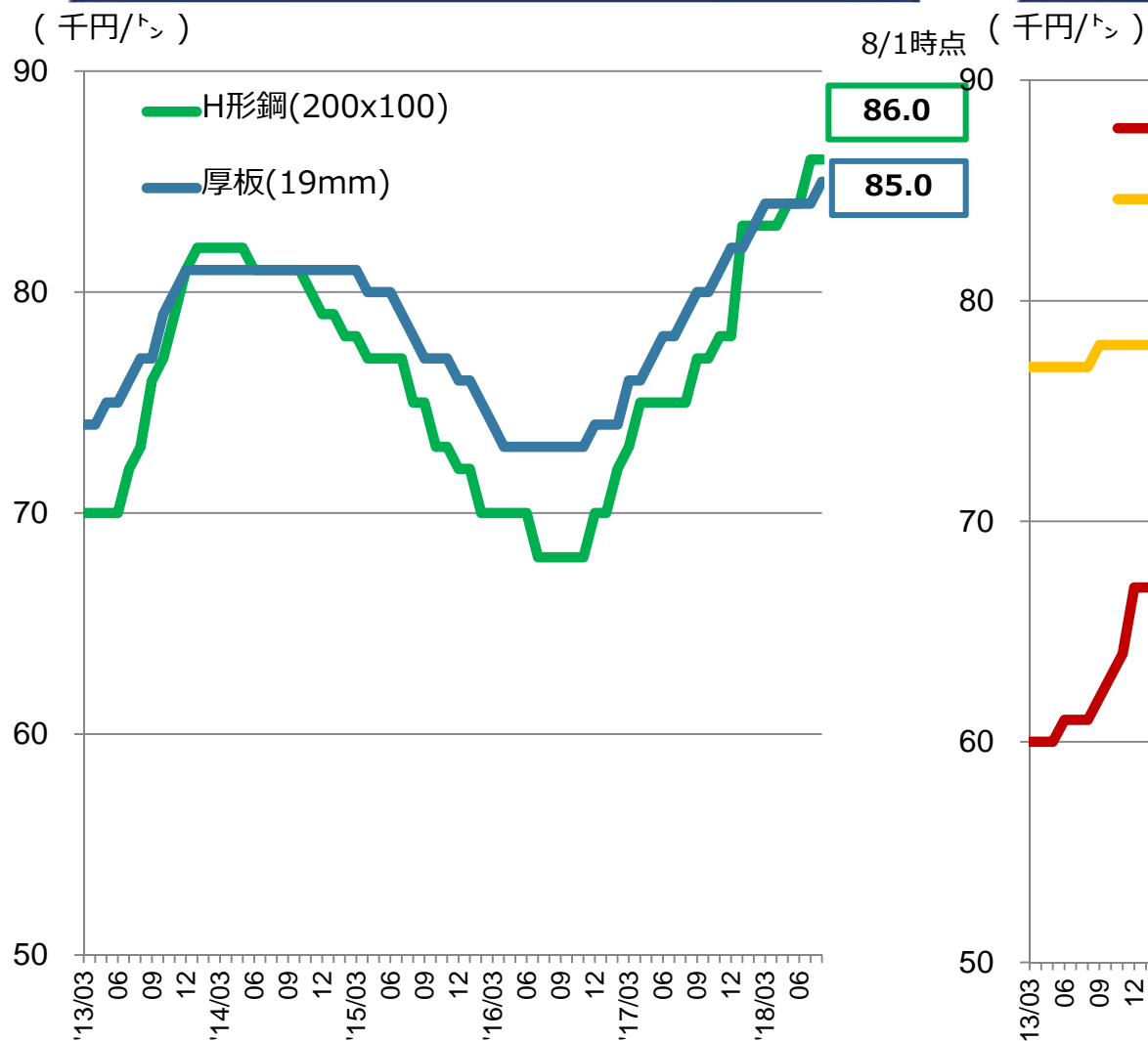
\*2 新日鉄住金：日鉄住金  
 鋼鉄和歌山含み(~FY2017)



# 国内鋼材市況 (店頭価格)

## 厚板・H形鋼

## 熱延・冷延



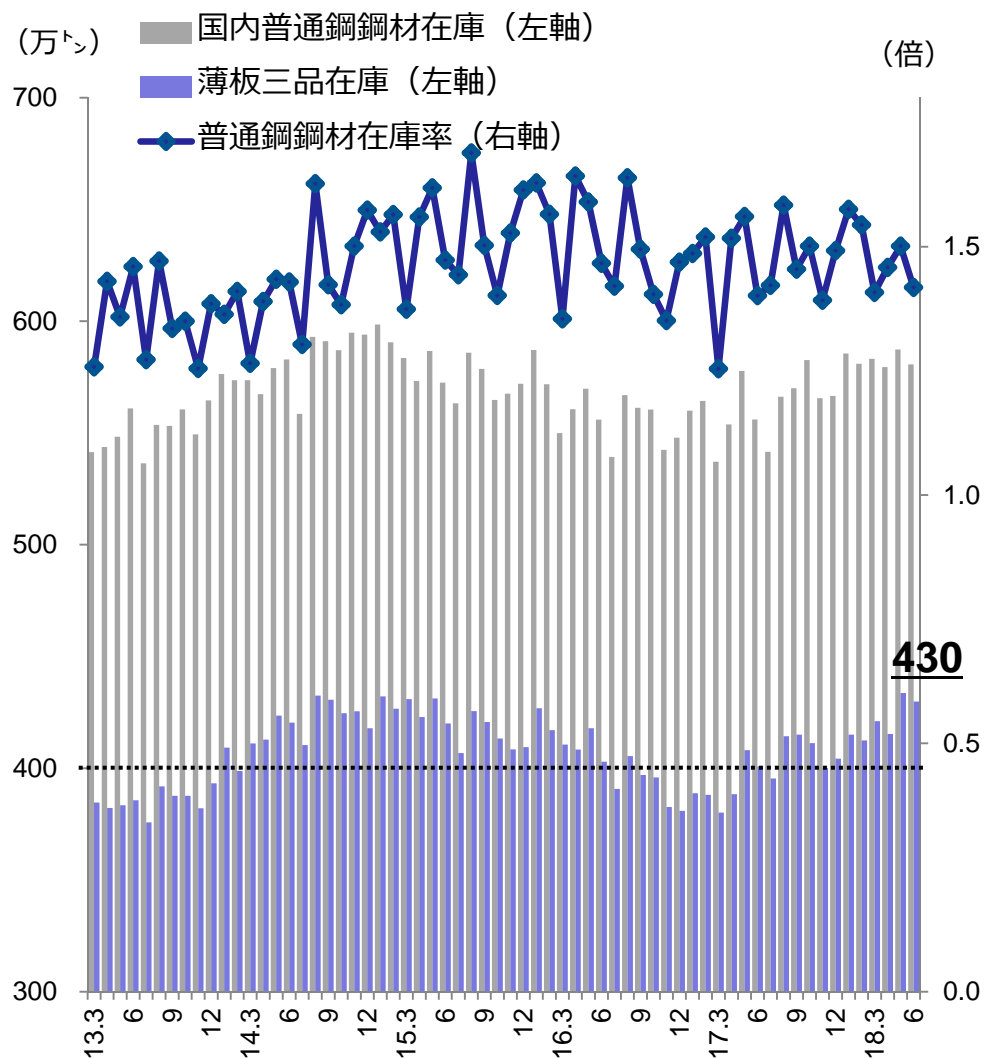
出典：鉄鋼新聞・月末・東京安値、問屋間仲間相場価格



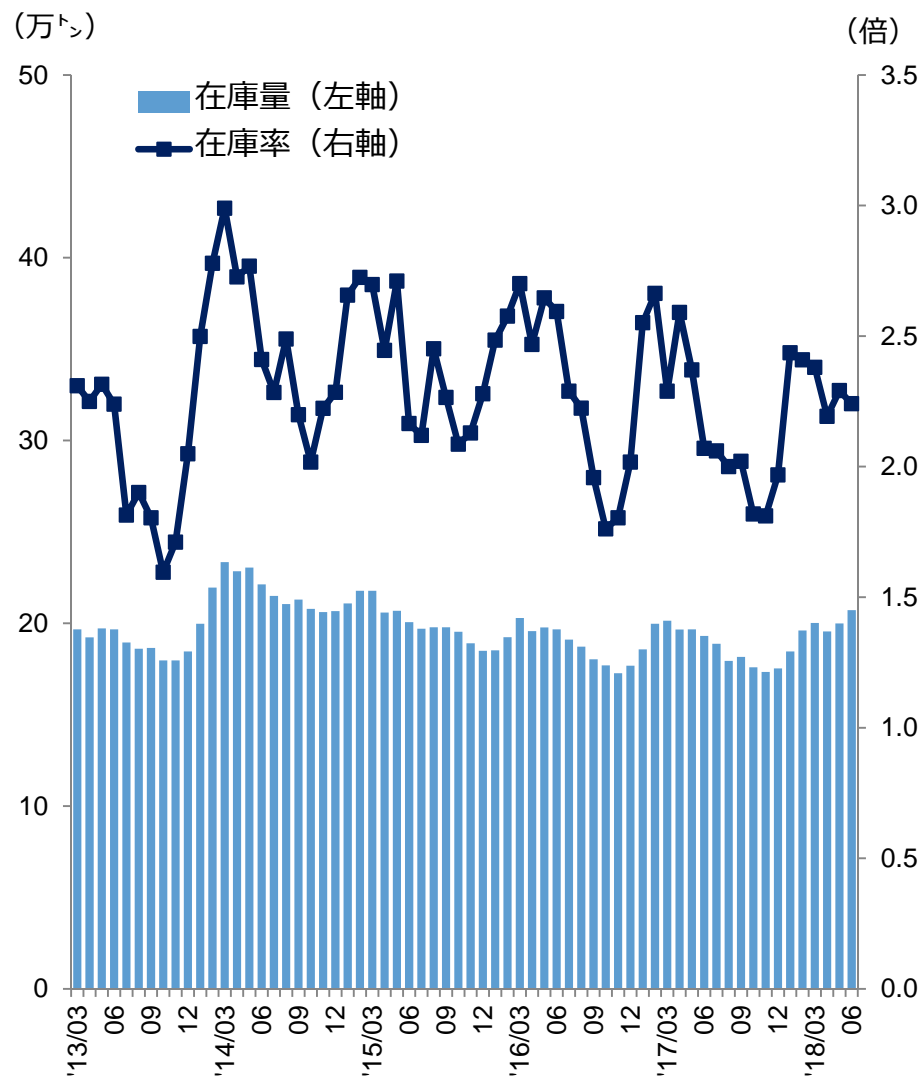
新日鐵住金

2019年4月 日本製鉄へ

## 普通鋼鋼材・薄板三品在庫



## ときわ会 (H形鋼) 在庫



出典：日本鉄鋼連盟



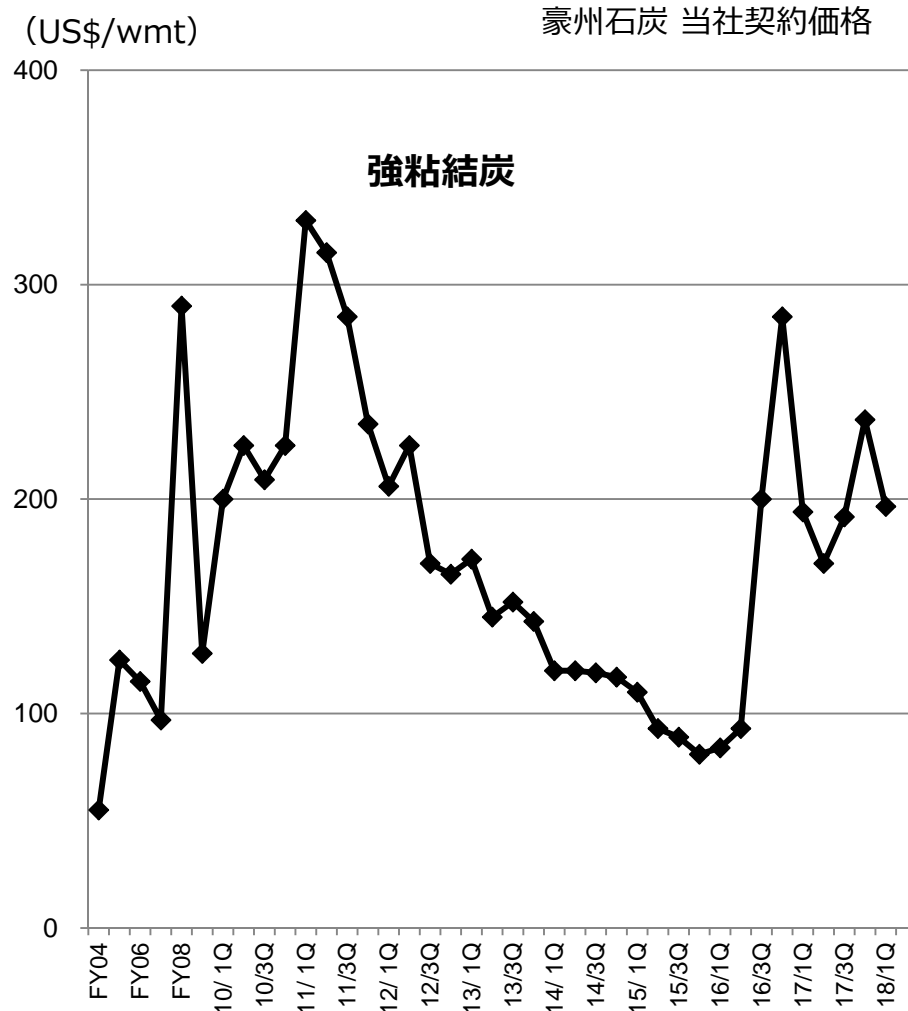
新日鐵住金

2019年4月 日本製鉄へ

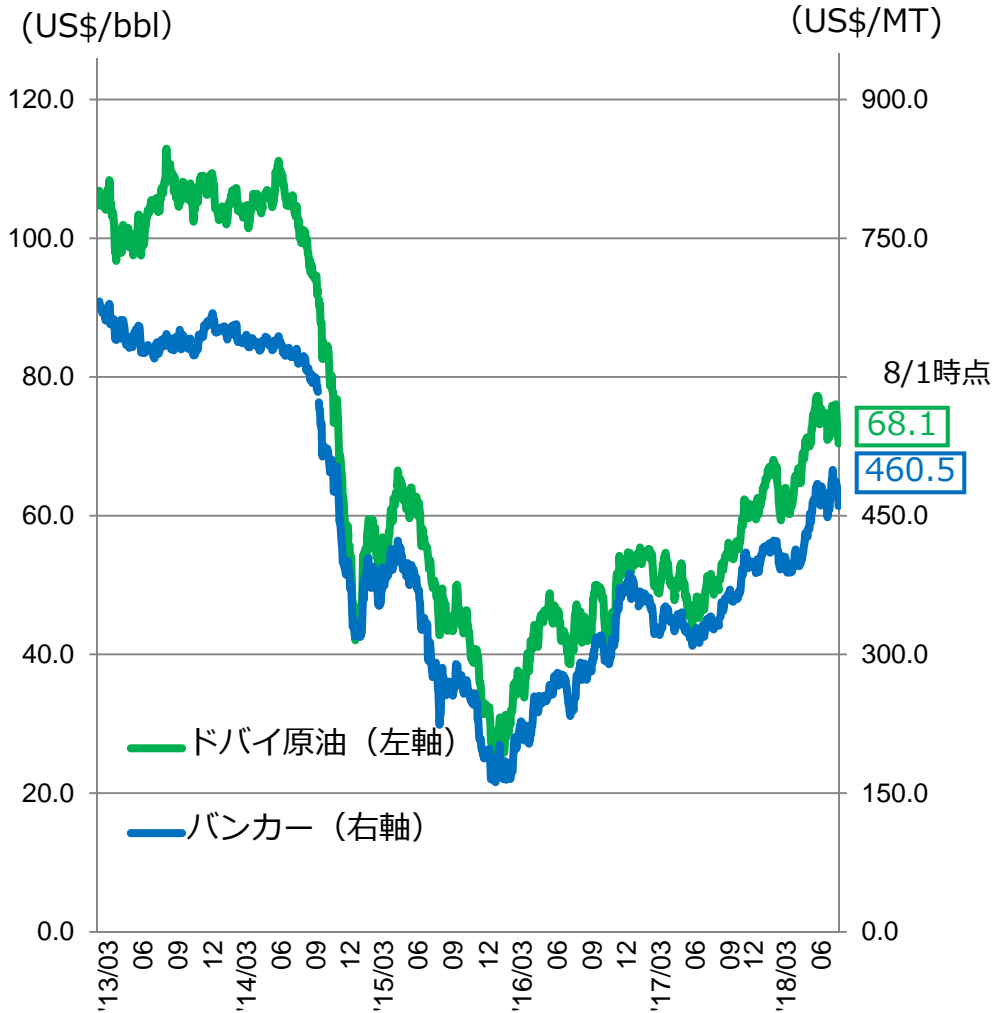
## 鉄鉱石



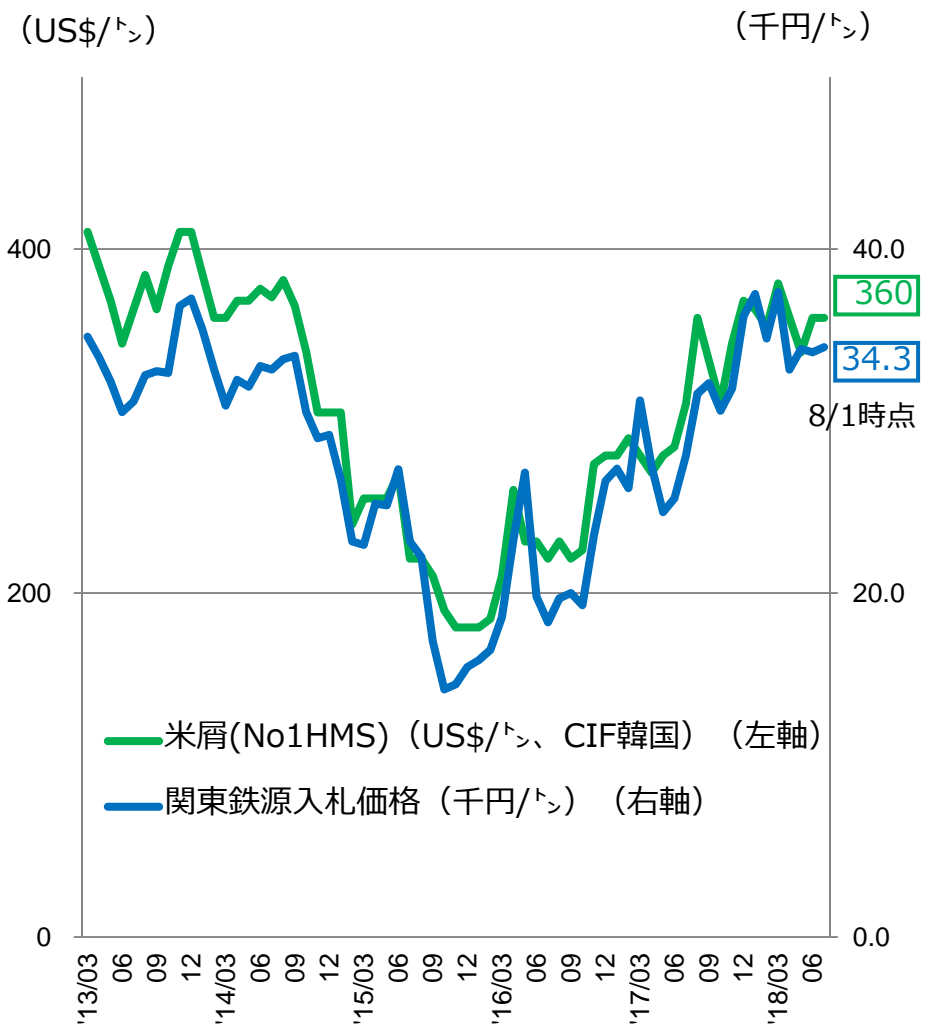
## 原料炭



## 原油



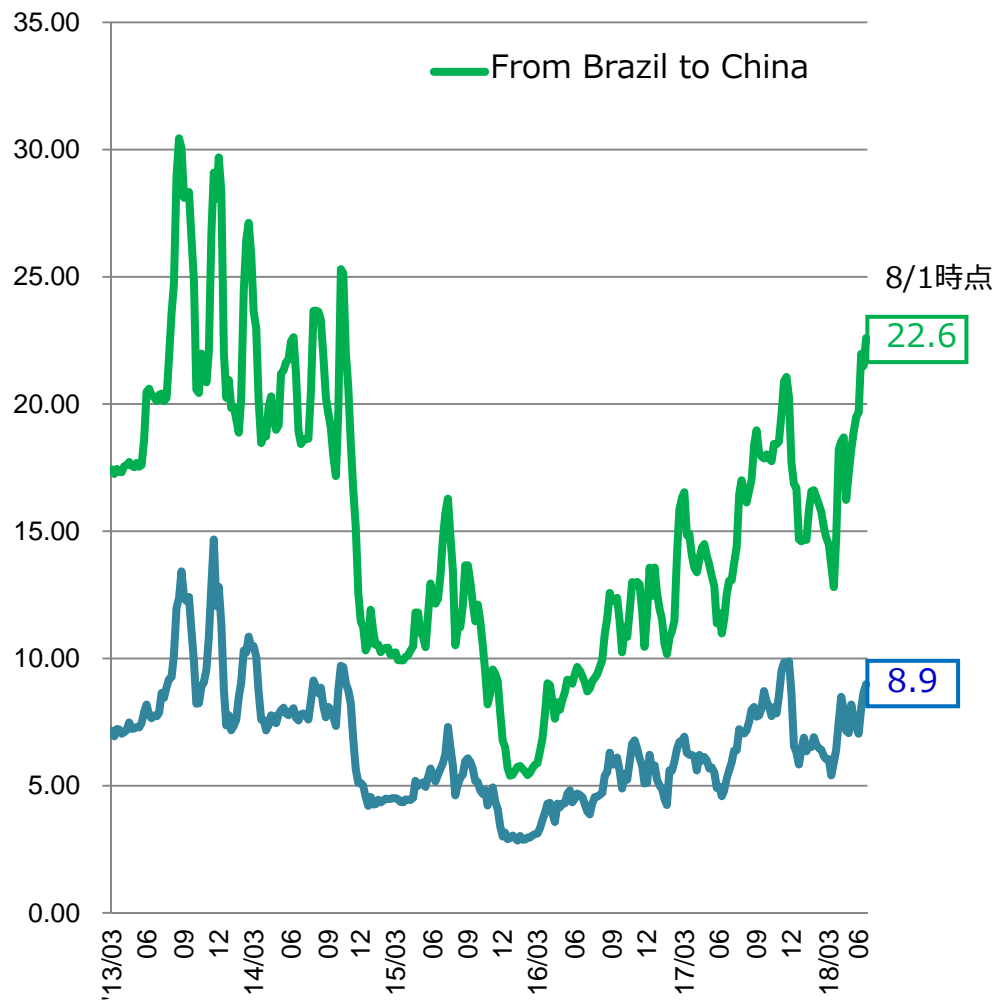
## スクラップ



# 原料市況 <フレート・型鉄>

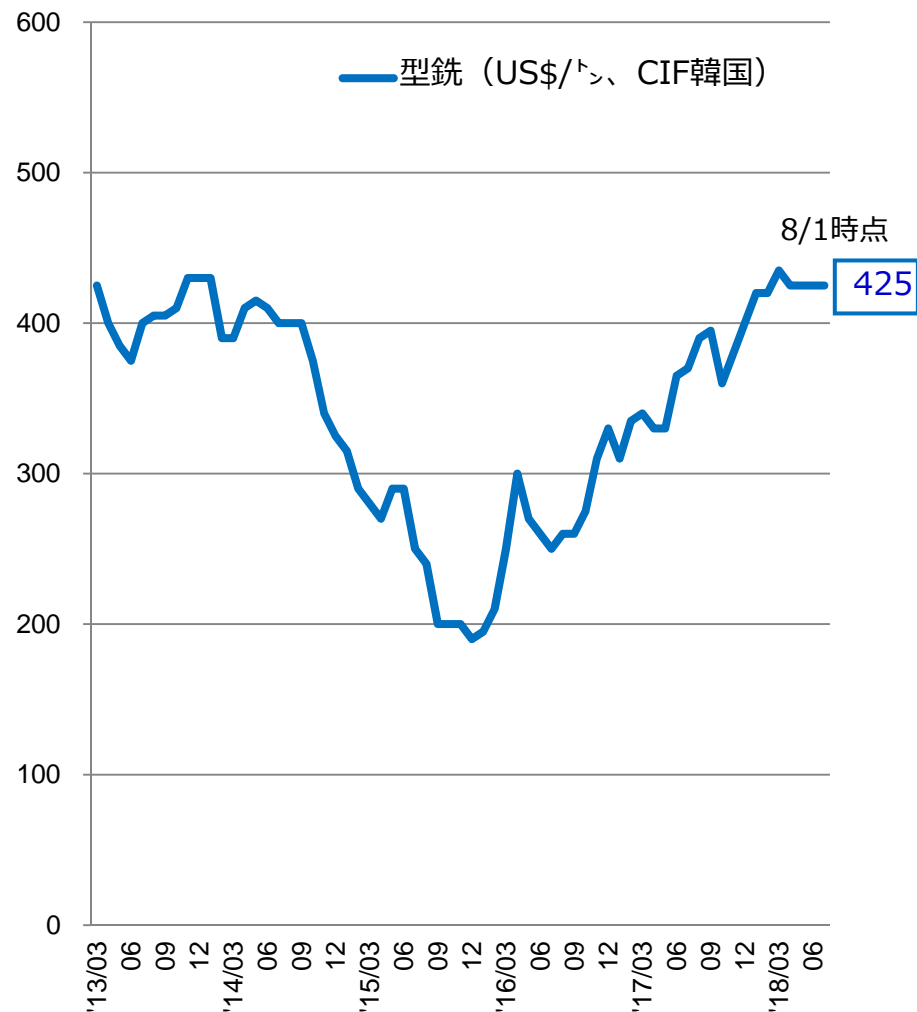
## フレート

(US\$/WMT,ケープサイズ 180千t船型)

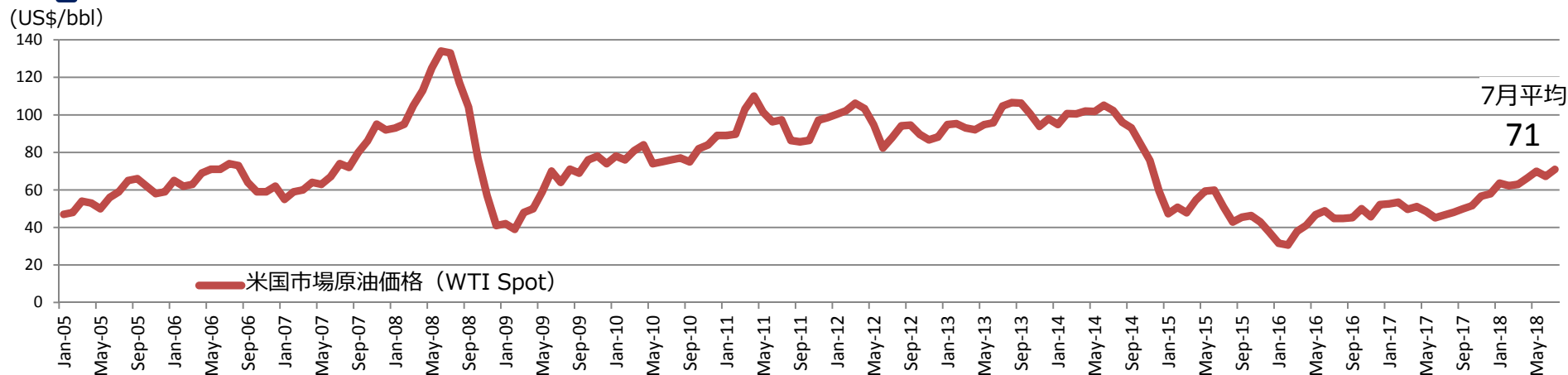


## 型鉄

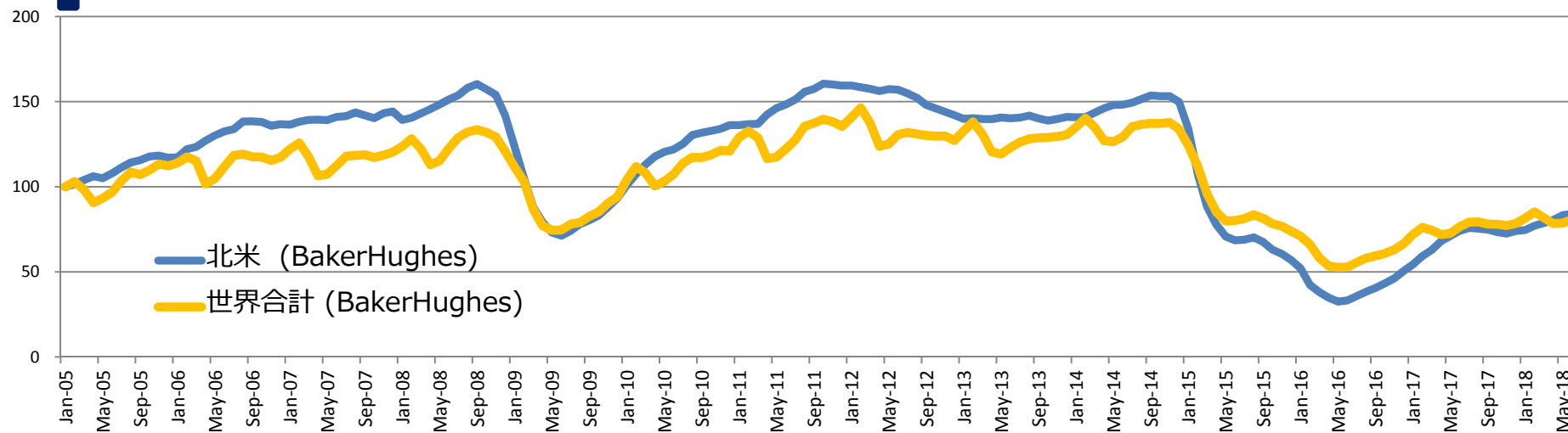
(US\$/T,CIF 韓国)



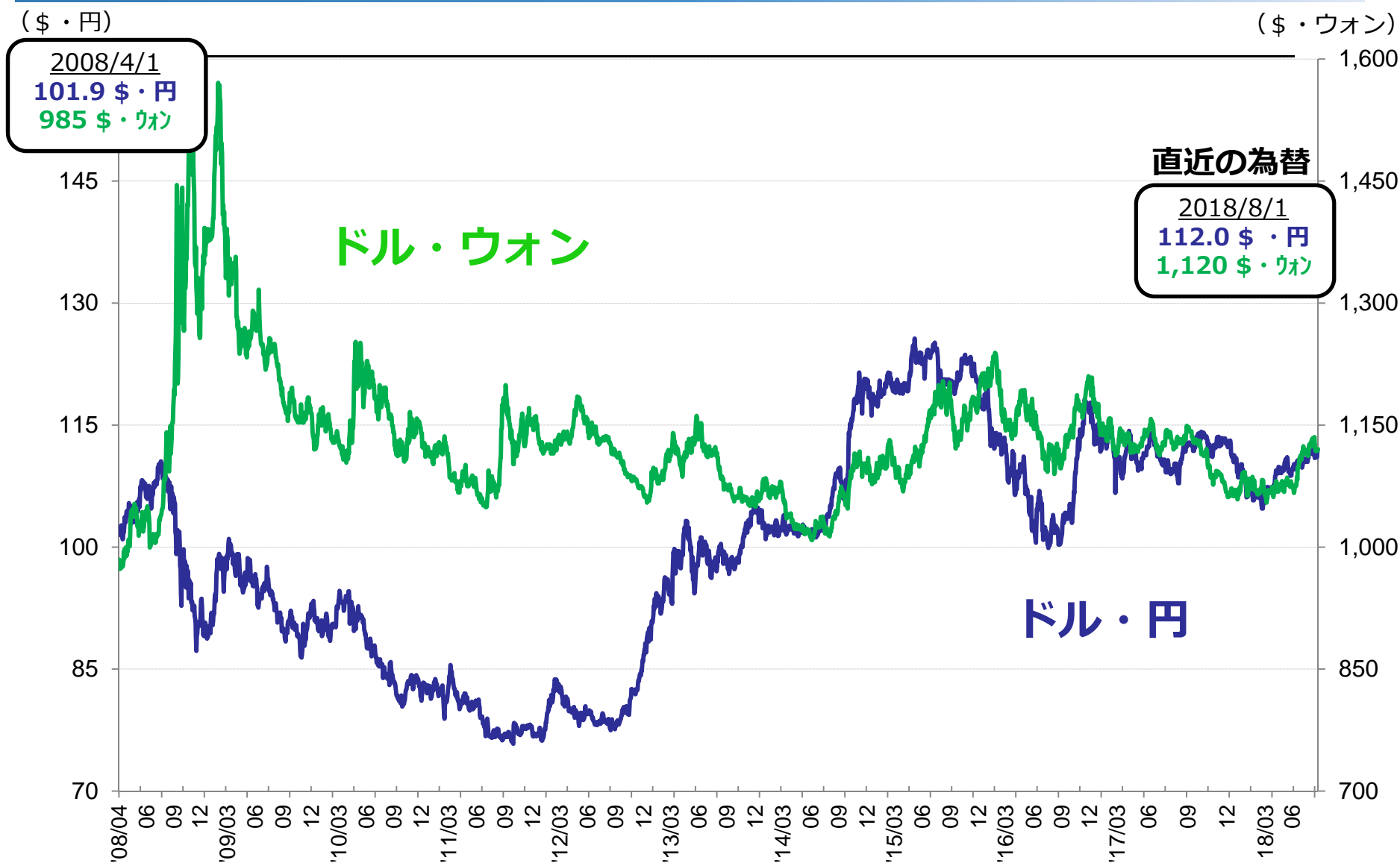
## 原油価格



## リグカウント (2005年1月=100)



# 為替推移 (ドル・円, ドル・ウォン)





新日鐵住金は、日新製鋼との本株式交換が行われる場合、それに伴い、Form F-4による登録届出書をSECに提出いたします。Form F-4を提出することになった場合、Form F-4には、目論見書(prospectus)及びその他の文書が含まれることになります。Form F-4が提出され、その効力が発生した場合、本株式交換を承認するための議決権行使が行われる予定である株主総会の開催日前に、Form F-4の一部として提出された目論見書が、日新製鋼の米国株主に対し発送される予定です。Form F-4及び目論見書には、新日鐵住金及び日新製鋼に関する情報、本株式交換及びその他の関連情報等の重要な情報が含まれます。日新製鋼の米国株主におかれましては、株主総会において本株式交換について議決権を行使される前に、本株式交換に関連してSECに提出されるForm F-4、目論見書及びその他の文書を注意してお読みになるようお願いいたします。本株式交換に関連してSECに提出される全ての書類は、提出後にSECのホームページ([www.sec.gov](http://www.sec.gov))にて無料で公開されます。なお、かかる資料につきましては、お申し込みに基づき、無料にて郵送いたします。郵送のお申し込みは、下記の連絡先にて承ります。

#### 本株式交換に関する問合せ先

会社名:	新日鐵住金株式会社	会社名:	日新製鋼株式会社
住所:	東京都千代田区丸の内二丁目6番1号	住所:	東京都千代田区丸の内三丁目4番1号
担当者:	広報センター所長 大西 史哲	担当者:	総務部秘書・広報チーム 村下 弥央
電話:	03-6867-2130	電話:	03-3216-5566
メール:	ohnishi.x97.fumiaki@jp.nssmc.com	メール:	murashita.m977@nisshin-steel.co.jp

本資料中の歴史的事実以外のすべての記述は、当社及び当社グループ会社の将来の業績に関する将来予想の記述です。これらは、現在入手可能な情報に基づく当社経営陣の仮定・判断を基礎とするものであり、リスクと不確実性を伴うものです。実際の業績は、本資料中の将来予想の記述と、大きく異なる可能性があります。

